Ⅰ　2017（平成 29）年度
事業概要

平成 29 年度　一般社団法人日本私立看護系大学協会社員総会報告

開 催 日 時　平成 29 年 7 月 14 日（金曜日）　午前 10 時 00 分から正午

開 催 場 所　東京都千代田区九段北４丁目２-25（アルカディア市ヶ谷３階富士の間）

出席社員数　総社員数　532 名

出席社員数　486 名（内訳　本人出席 234 名　委任状出席 252 名）

社員の議決権総数　532 個

出席社員の議決権数　486 個

議　　長　会長　井部　俊子

出 席 役 員（理事）井部　俊子、出野　慶子、伊藤　直子、惠美須文枝、大島　弓子、大西香代子、奥田　泰子、小山眞理子、島袋　香子、清水　房枝、塚本　康子、坪倉　繁美、長澤　正志、野口　眞弓、林　優子、星　直子、前山　直美、山本 真千子

（監事）太田喜久子、野並　葉子

議　　題

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 新規会員校紹介
4. 出席者数の確認
5. 平成 28 年度社員総会議事録確認
6. 審議事項

第 1 号議案　平成 28 年度事業活動報告及び決算・監査報告に関する件

第 2 号議案　役員候補者選出に関する件

第 3 号議案　社員総会運営規程に関する件

第 4 号議案　定款の一部改訂に関する件

第 5 号議案　平成 29 年度役員選任に関する件

7. 報告事項

(1) 平成 29 年度事業活動計画及び予算に関する件

(2) 規程等の整備に関する件

(3) 平成 29 年度相談役に関する件

8. 閉会

議　　事

1. 開会

井部俊子会長が、定刻に開会を宣した。

2. 会長挨拶

井部俊子会長が平成 28 年度年次報告書に基づき、会長挨拶をした。

3. 新規会員校紹介

井部俊子会長より、平成 29 年度新規会員校 8 校が紹介され、2 校の改組転換が報告された。現在、会員校数は 4 年制大学 166 校、短期大学は 12 校、計 178 校になったことが報告された。

1）平成 29 年度新規会員校（五十音順）

・一宮研伸大学 看護学部看護学科（愛知きわみ看護短期大学改組転換による大学新設）
・いわき明星大学 看護学部看護学科
・岩手医科大学 看護学部看護学科（岩手看護短期大学改組転換による学部設置）
・岩手保健医療大学 看護学部看護学科
・秀明大学 看護学部看護学科
・聖カタリナ大学 人間健康福祉学部看護学科
・東京情報大学 看護学部看護学科
・東邦大学 健康科学部看護学科
・人間環境大学 松山看護学部看護学科
・福岡看護大学 看護学部看護学科

4. 出席者数の確認

事務局より、定款第 18 条により、 9 時 55 分時点、正会員 532 名中、出席者 234 名、委任状 252 名、計 486 名をもって総会が成立することが報告された。定款第 17 条により、社員総会の議長は井部俊子会長とし、また定款第 22 条により、議事録署名人は大島弓子理事、出野慶子理事が指名された。

5. 平成 28 年度社員総会議事録確認

議長より、平成 28 年度社員総会議事録の報告があり、確認を行った。

6. 審議事項

【第 1 号議案　平成 28 年度事業活動報告及び決算・監査報告に関する件】

1）平成 28 年度理事会報告

議長より、平成 28 年度年次報告書に基づき、理事会報告を行った。

2）平成 28 年度事業活動報告

野口眞弓業務執行理事より、平成 28 年度年次報告書に基づき、「大学教育委員会」、「研究活動委員会」、「国際交流委員会」、「大学運営・経営委員会」、「渉外委員会」、「広報委員会」、「将来構想検討委員会」、「40 周年記念事業準備委員会」の事業報告を行った。

①「大学教育委員会」

「大学新任教員のための研修会 2016」（100 名参加）と「変革期にある大学における教育のリーダーシップ、教員の育ちについて考える」（44 名参加）の 2 つのセミナーを開催した。「大学新任教員のための研修会 2016」は、大学教員として活動する上で、必要かつ個々の大学レベルで対応が難しい知識や情報の提供を目的として実施した。「変革期にある大学における教育のリーダーシップ、教員の育ちについて考える」セミナーは、社会の変化、

大学改革の方針が打ち出される中、看護系大学の急増は、教員の量的確保ばかりでなく、教員の質保証の障害となっている。質・量ともに変化が求められる中、あらゆる職位に於いて、教員の教育に関する課題は存在し、解決が急務である。中でも教員組織全体の意識・教育力に大きく影響を及ぼす管理、教員教育をする立場にある教員（近い将来その立場になる教員）が重要であると考え、この職位に焦点を当て、教育のリーダーシップ、教員の育ちテーマにセミナーを企画した。

②「研究活動委員会」

研究セミナーを開催した。（参加者 109 名）第 1 部は、平成 24・25 年度若手研究者研究助成報告会、第 2 部はテーマを看護研究の目的別アプローチとし、高木廣文氏（共立女子大学　教授）より、「研究における統計解析のキーポイント」、八重ゆかり氏（聖路加国際大学　准教授）より、「看護研究における統計解析」の講演をいただいた。

研究助成事業として、平成 28 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を行った。7 月に選考委員会で選考した結果を理事会に提出、書類審査の上、助成者を決定し、助成金の交付とともに、「研究セミナー」で研究助成の募集および選考結果の報告をした。平成 28 年度の研究助成応募総数 29 件であり、14 件が採択となった。内訳は「看護学研究奨励賞」の応募は 2 件、採択は 0 件、「若手研究者研究助成」の応募は 18 件、採択 10 件、「国際学会発表助成」の応募は 9 件、採択 4 件であった。過去 10 年間での採択率は、「看護学研究奨励賞」48.3%、「若手研究者研究助成」43.9%、「国際学会発表助成」32.4%であることも併せて報告された。

③「国際交流委員会」

グローバル化に対応する教育内容実態調査を行った。項目は「グローバル人材育成に関する大学の計画・方針、制度について」「語学力・コミュニケーション力の養成について」「異文化に対する理解やアイデンティティーを涵養するための取り組みについて」「主体性、チャレンジ精神、協調性、責任感を涵養するための取り組みについて」であった。

④「大学運営・経営委員会」

「私立大学等改革総合支援事業採択に向けての対策と会計検査院対応」というテーマで研修会を開催した。（参加者 39 名）また、看護教育研究経費データベースの基本システムを構築し、会員校に対してデータ収集のための調査を行い、そのデータ解析を行った。

⑤「渉外委員会」

「看護師国家試験を考える」というテーマで 2 部構成の研修会を開催した。（参加者 109 名）第 1 部は「看護師国家試験の現状と課題」第 2 部は「看護師国家試験の対策～札幌医科大学の事例報告～」であった。ここ数年来国家試験に関わる活動に取り組んできたが、来年度からは、設立当初の目的に沿った内容へと方向を修正する。

⑥「広報委員会」

会報 35 号と 36 号を発刊した。ホームページをリニューアルすることとなった。

⑦「将来構想検討委員会」

組織の機動性と活性化を図ると共に会員校に有益な事業を展開するための方向性として、役員の選出方法の見直しや、教育の研修体系の策定などを行い、将来構想検討委員会

の設置趣旨に沿った一定の方向性を理事会に提案した。

⑧「40 周年記念事業委員会」

本協会設立 40 周年を祝し、記念式典、記念講演・シンポジウム、祝賀会と記念誌発行を行った。

3）収支決算・監査報告

長澤正志財務担当理事より総会資料「平成 28 年度日本私立看護系大学協会収支決算書」、「正味財産増減計算書」「貸借対照表」「財産目録」に基づき平成 28 年度決算報告が説明された。

太田喜久子監事より平成 29 年 5 月 15 日に実施した平成 28 年度の監査報告があった。質疑応答なく議長により、その承認を求めた結果、465 個の過半数の賛成を得て承認された。

【第 2 号議案　役員候補者選出に関する件】

議長より、役員候補者選出について説明があった。正会員より、第 8 条第 2 項の投票率の表記についての質問があり修正することとなった。議長により、その承認を求めた結果、455 個の賛成を得て承認された。

【第 3 号議案　社員総会運営規程に関する件】

坪倉繁美副会長より、社員総会運営規程について説明があった。議長により、その承認を求めた結果、458 個の賛成を得て承認された。

【第 4 号議案　定款の一部変更に関する件】

議長より、定款の変更について、「定款一部改訂新旧対照表」に基づき説明があった。議場より質疑応答はなく、議長により、別紙の定款新旧対照表のとおり定款変更することにつきその承認を求めた結果、462 個の賛成を得て承認された。（正会員 532 名の過半数であり、正会員議決権 532 個の 3 分の 2 以上の賛成を得て承認された。）

【第 5 号議案　平成 29 年度役員選任に関する件】

野口眞弓業務執行理事より、「理事監事等の選出内規」に基づき説明があった。議長により、採決方法について各項ごと一括採決でよいか承認を求めた結果、425 個の賛成を得て承認された。

1）新理事校及び新理事選任について

①国際医療福祉大学小田原保健医療学部、荒木田美香子氏

②西武文理大学、小寺　栄子氏

③日本赤十字北海道看護大学、河口てる子氏

④鳥取看護大学、近田　敬子氏

⑤日本医療大学、門間　正子氏

⑥東北福祉大学、杉山　敏子氏

⑦高崎健康福祉大学、池田　優子氏

⑧上智大学、塚本　尚子氏

⑨横浜創英大学、桑田　惠子氏

議長により、上記のとおり新たに理事を選任することにつき、その承認を求めた結果、437 個の賛成を得て承認された。

2）理事校における理事交代について

①大阪医科大学、林 優子理事の退任に伴い、同大学の道重 文子氏を理事に選任すること。

②園田学園女子大学、大西 香代子理事の退任に伴い、同大学の山本 恭子氏を理事に選任すること。

③四国大学、奥田 泰子理事の退任に伴い、同大学の小川 佳代氏を理事に選任すること。

議長により、上記のとおり理事を選任することにつき、その承認を求めた結果、440 個の賛成を得て承認された。

3）理事重任について

①神奈川歯科大学短期大学部、前山 直美氏

②亀田医療大学、惠美須 文枝氏

③東邦大学、出野 慶子氏

④豊橋創造大学、大島 弓子氏

⑤西南女学院大学、伊藤 直子氏

⑥日本赤十字広島看護大学、小山 眞理子氏

議長により、上記のとおり理事を選任することにつき、その承認を求めた結果、439 個の賛成を得て承認された。

7. 報告事項

1）平成 29 年度事業活動計画及び予算に関する件

野口眞弓業務執行理事より、「事業活動計画書」に基づき、平成 29 年度事業活動について報告があった。続いて長澤正志財務担当理事より、「平成 29 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書」に基づき収支予算について報告があった。正会員より、予算書の合計支出差異が違うとの指摘があり修正された。

2）規程等の整備に関する件

野口眞弓業務執行理事より、諸規程等の整備について報告があった。

3）平成 29 年度相談役に関する件

坪倉繁美副会長より、長澤正志氏の相談役就任について報告があった。

8. 閉会

以上をもって議事・報告事項が終了し議長は閉会を宣した。

平成 28 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会収支決算書

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

〈収入〉　（単位：円）

科目	平成28年度予算	平成28年度決算	差異	備考
会費	52,200,000	51,600,000	600,000	会　費@ 300,000 × 168 校 入会金@ 200,000 × 6 校
銀行利息	20,000	323	19,677	普通預金
雑収入	480,000	257,000	223,000	40 周年記念式典祝賀会参加費
将来構想特別会計戻入金	13,000,000	13,000,000	0	40 周年記念事業、事務所移転費用
前期末未収入金	0	300,000	△ 300,000	平成 27 年度未納会費
仮払金回収収入	0	448,591	△ 448,591	平成 27 年度事業費返還金他
敷金還付金回収収入	819,000	376,869	442,131	
預り金	2,500,000	1,956,523	543,477	源泉所得税、住民税、社会保険料
収入小計	69,019,000	67,939,306	1,079,694	
前年度繰越金	20,490,000	20,489,962	38	
合計	89,509,000	88,429,268	1,079,732	

〈支出〉

科目	平成28年度予算	平成28年度決算	差異	備考
事業費	49,802,000	41,889,880	7,912,120	
大学における教育に関する事業	3,860,000	2,939,868	920,132	（会場経費削減と謝金等の辞退による人件費減額のため）
学術研究および学術研究体制に関する事業	1,359,000	442,943	916,057	（研修会場費削減のため）
研究助成事業	5,722,000	4,543,687	1,178,313	（看護学奨励賞該当者なしのため）
教育、学術および文化の国際交流事業	1,225,000	837,682	387,318	（ヒアリング調査を次年度実施に変更したための交通経費等減額のため）
大学運営・経営に関する事業	2,345,000	1,381,971	963,029	（データベース保守料、講師謝金削減のため）
関係機関との提携等に関する社会的事業	1,670,000	1,023,369	646,631	（アンケート調査に係る（印刷経費等）削減のため）
会報・出版等の広報に関する事業	1,301,000	1,120,442	180,558	
将来構想検討に関する事業	525,000	288,349	236,651	（謝金等の辞退による人件費、交通費等減額のため）
40 周年記念事業費	8,250,000	9,118,193	△ 868,193	
人件費	10,020,000	7,675,784	2,344,216	総会受付等アルバイト代
会議費	2,380,000	2,312,450	67,550	総会、理事会経費
旅費交通費	3,020,000	2,408,206	611,794	理事会等出席交通費
賃借料	4,150,000	4,049,232	100,768	事務所使用料、総会集計機リース料
消耗品費	1,000,000	819,348	180,652	会長表彰用品代等
印刷費	2,850,000	2,805,676	44,324	年報印刷費
業務委託費	125,000	122,680	2,320	
管理費	12,960,000	11,666,264	1,293,736	
人件費	6,680,000	5,262,948	1,417,052	事務局員等人件費
会議費	200,000	42,456	157,544	管理会議等
旅費交通費	50,000	12,226	37,774	近地交通費
賃借料	2,100,000	2,119,290	△ 19,290	事務所賃料、コピー機・電話機リース料
消耗品費	750,000	494,955	255,045	文具他
印刷費	500,000	533,174	△ 33,174	コピー機利用料
業務委託費	1,410,000	1,710,428	△ 300,428	公認会計士業務委託契約料、Web 管理契約料
通信費	750,000	889,245	△ 139,245	切手・郵送費、電話・電報代、振込手数料
光熱水費	450,000	531,542	△ 81,542	事務所光熱費
租税公課	70,000	70,000	0	法人都民税
敷金支出	4,000,000	2,148,960	1,851,040	
将来構想特別会計繰入金	1,000,000	1,000,000	0	将来構想特別会計積立金
維持管理特別会計繰入金	0	0	0	維持管理特別会計積立金
退職給付引当金繰入金	270,000	259,253	10,747	
預り金	2,500,000	2,001,095	498,905	源泉所得税、住民税等、社会保険料
前期末未払金支払支出	1,000,000	898,990	101,010	
期末未払金	△ 1,000,000	△ 792,166	△ 207,834	
支出小計	70,532,000	59,072,276	11,459,724	
次年度繰越金	18,977,000	29,356,992	△ 10,379,992	
合計	89,509,000	88,429,268	1,079,732	

平成 28 年度将来構想特別会計決算書

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

〈収入〉　（単位；円）

科目	平成28年度予算	平成28年度決算	差異	備考
平成 28 年度繰入金	1,000,000	1,000,000	0	
利息収入	136,000	144,034	△ 8,034	
前年度繰越金	18,111,000	18,116,362	△ 5,362	
合計	19,247,000	19,260,396	△ 13,396	

〈支出〉

科目	平成28年度予算	平成28年度決算	差異	備考
周年記念事業操出金	8,250,000	8,250,000	0	
事務所移転費用操出金	4,750,000	4,750,000	0	
業務委託費	0	756	△ 756	残高証明書発行手数料
次年度繰越金	6,247,000	6,259,640	△ 12,640	
合計	19,247,000	19,260,396	△ 13,396	

平成 28 年度維持管理特別会計決算書

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

〈収入〉　（単位；円）

科目	平成28年度予算	平成28年度決算	差異	備考
平成 28 年度繰入金	0	0	0	
前年度繰越金	8,000,000	8,000,000	0	
合計	8,000,000	8,000,000	0	

〈支出〉

科目	平成28年度予算	平成28年度決算	差異	備考
次年度繰越金	8,000,000	8,000,000	0	
合計	8,000,000	8,000,000	0	

平成 29 年度一般社団法人日本私立看護系大学協会予算書

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

〈収入〉　（単位；千円）

科目	平成29年度予算	平成28年度予算	差異	備考
会費	54,600	52,200	2,400	会　費@ 300,000 × 178 校 入会金@ 200,000 × 6 校
銀行利息	140	20	120	有価証券　普通預金
雑収入	0	480	△ 480	
将来構想特別会計繰出金	0	13,000	△ 13,000	
敷金還付金回収収入	0	819	△ 819	
預り金	2,500	2,500	0	源泉所得税、住民税、社会保険料
（収入小計）	57,240	69,019	△ 11,779	
前年度繰越金	29,356	20,490	8,866	現金及び普通預金
合計	86,596	89,509	△ 2,913	

〈支出〉

科目	平成29年度予算	平成28年度予算	差異	備考
事業費	46,144	49,802	△ 3,658	
大学教育委員会	4,594	3,860	734	
研究活動委員会	1,205	1,359	△ 154	
研究助成事業	5,650	5,722	△ 72	
国際交流委員会	1,246	1,225	21	
大学運営・経営委員会	1,921	2,345	△ 424	
渉外委員会	690	1,670	△ 980	
広報委員会	2,766	1,301	1,465	
将来構想検討委員会	0	525	△ 525	
40 周年記念事業費	0	8,250	△ 8,250	
人件費	7,800	10,020	△ 2,220	総会人件費、事務局員等人件費
消耗品費	1,000	1,000	0	総会用品、会長表彰記念品代等
旅費交通費	3,322	3,020	302	理事会等出席交通費
印刷費	2,850	2,850	0	
賃借料	3,600	4,150	△ 550	事務所賃料、総会集計機リース料
会議費	3,600	2,380	1,220	総会、理事会経費
業務委託費	5,900	125	5,775	動画配信サーバー保守料、ホームページ改修他
管理費	11,920	12,960	△ 1,040	
人件費	5,200	6,680	△ 1,480	事務局員人件費等
消耗品費	1,000	750	250	文具他、電子選挙投票ソフト
光熱水費	600	450	150	事務所光熱費
旅費交通費	200	50	150	近地交通費、選挙管理委員会交通費
通信費	800	750	50	切手・郵送費、電話・電報代、振込手数料
印刷費	750	500	250	コピー機利用料
賃借料	2,400	2,100	300	事務所賃料、コピー機・電話機リース料
会議費	200	200	0	管理会議等
業務委託費	700	1,410	△ 710	公認会計士業務委託契約料、Web 管理契約料、
租税公課	70	70	0	法人都民税
敷金支出	0	4,000	△ 4,000	新事務所敷金
将来構想特別会計繰入金	1,000	1,000	0	将来構想特別会計積立金
維持管理特別会計繰入金	2,000	0	2,000	維持管理特別会計積立金
退職給付引当金繰入金	276	270	6	
預り金	2,500	2,500	0	源泉所得税、住民税等、社会保険料
前期末未払金支払支出	1,000	1,000	0	
期末未払金	△ 1,000	△ 1,000	0	
（支出小計）	63,840	66,532	△ 2,692	
次年度繰越金	22,756	18,977	3,779	（予備費を含む）
合計	86,596	89,509	△ 2,913	

平成 29 年度将来構想特別会計予算書

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

〈収入〉　（単位；千円）

科目	平成29年度予算	平成28年度予算	差異	備考
平成29年度繰入金	1,000	1,000	0	
利息収入	0	136	△ 136	
前年度繰越金	6,259	18,111	△ 11,852	
合計	7,259	19,247	△ 11,988	

〈支出〉

科目	平成29年度予算	平成28年度予算	差異	備考
周年記念事業繰出金	0	8,250	△ 8,250	
事務所移転費用繰出金	0	4,750	△ 4,750	
次年度繰越金	7,259	6,247	1,012	
合計	7,259	19,247	△ 11,988	

平成 29 年度維持管理特別会計予算書

（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

〈収入〉　（単位；千円）

科目	平成29年度予算	平成28年度予算	差異	備考
平成29年度繰入金	2,000	0	2,000	事務所賃料、人件費等増額に伴う
前年度繰越金	8,000	8,000	0	
合計	10,000	8,000	2,000	

〈支出〉

科目	平成29年度予算	平成28年度予算	差異	備考
次年度繰越金	10,000	8,000	2,000	
合計	10,000	8,000	2,000	

平成 29 年度　理事会報告

平成 29 年度　第 1 回定例理事会

日　　時：平成 29 年 5 月 20 日（土曜日）午後 2 時 00 分から午後 5 時 30 分
場　　所：日本私立看護系大学協会　法人事務所
出席者数：19 名、欠席者 3 名（全役員：22 名）

審議内容

(1) 平成 29 年度新任役員の推薦について承認された。
(2) 相談役の任命について、長澤正志理事の相談役就任が承認された。
(3) 役員候補者選出の選挙について①役員候補者選出規程案について以下 3 点を修正し承認された。(理事候補者の選出) 第 5 条第 2 項　30 校以上の地区は 3 名とし、15 校増えるごとに 1 名増やす。(役員候補者選任案の作成と承認) 第 11 条　理事会は、役員候補者選任案を作成し、社員総会に提出し承認を得る。(附則) 施行日を平成 29 年 7 月 15 日とする。②選挙管理委員会規程案について、平成 29 年 7 月 15 日から施行することとし承認された。
(4) 諸規程の整理ついて審議され以下のとおり承認された。①入会規程、慶弔規程を定めた。②社員総会運営規則について、社員総会運営規程と変更する。③情報公開規程について、施行日を平成 29 年 4 月 1 日とし遡及施行する。④経理規程、嘱託及び臨時職員等就業規則について一部変更する。
(5) 定款の変更について、(決議) 第 18 条第 4 項の削除、(社員総会規則) 第 23 条の変更、(役員) 第 24 条第 3 項の変更、(理事の職務権限) 第 26 条第 4 項の変更、(任期) 第 28 条第 2 項の変更、(取引の制限) 第 31 条第 3 項の変更、(責任の免除又は限定) 第 32 条第 2 項の削除、(決議の省略) 第 41 条の変更、(理事会運営規則) 第 44 条の変更、(設置) 第 61 条第 2 項の変更が確認された。(役員の選出) 第 25 条については書面理事会において継続審議することとした。
(6) 平成 29 年度新規会員校について、10 校の新規加入について承認された。
(7) 平成 29 年度研究助成委員会選考委員について、出野慶子理事が説明し承認された。
(8) 会報第 38 号について、島袋香子理事が説明し承認された。
(9) 平成 29 年度事業計画・予算について①平成 29 年度重点事業について承認された。②平成 29 年度事業計画案について、各事業担当理事より説明され承認された。③平成 29 年度予算案について、長澤正志理事より説明され承認された。

報告事項

(1) 平成 28 年度事業活動報告と決算について、①事業活動報告と会計内訳について各理事より報告され、長澤正志理事より決算について説明された。監査について太田喜久子監事より報告された。

平成 29 年度　第 1 回 臨時理事会（書面による決議）

日　時：平成 29 年 6 月 9 日（金曜日）

定款第 25 条第 2 項を「理事及び監事候補者の選出について、必要な事項は別に定める役員候補者選出規程による。」と変更することについて審議され、理事全員の賛成を得て承認された。

平成 29 年度　第 2 回 臨時理事会

日　時：平成 29 年 7 月 14 日（金曜日）午後 0 時 00 分から午後 0 時 40 分

場　所：アルカディア市ヶ谷

出席者数：20 名、欠席者 2 名（全役員：22 名）

平成 29 年度代表理事について、大島弓子氏を代表理事に選任することが出席理事全員の賛成を得て承認された。

平成 29 年度　第 2 回定例理事会

日　時：平成 29 年 7 月 23 日（日曜日）午前 10 時 00 分から午後 0 時 30 分
場　所：日本私立看護系大学協会　法人事務所
出席者数：14 名、欠席者 8 名（全役員：22 名）

審議内容

(1) 平成 29 年度重点事業について継続審議とする。
(2) 平成 29 年度役員組織、委員会・委員会活動の確認と概括について、以下の通り承認した。①執行部は、副会長を、惠美須 文枝理事、河口 てる子理事 2 名とし、業務執行理事を伊藤 直子理事、財務担当理事を出野 慶子理事とする。②委員会担当理事について、（大学教育委員会）担当理事は、惠美須 文枝理事、大島 弓子理事、小川 妙子理事、桑田 惠子理事、門間 正子理事。委員長は、小川 妙子理事。但し、大島 弓子理事は 8 月 6 日の研修会までとする。（研究活動委員会）担当理事は、池田 優子理事、出野 慶子理事、小川 佳代理事、小寺 栄子理事、前山 直美理事。委員長は、前山 直美理事。但し、出野 慶子理事は、9 月 2 日の研究セミナーまでとする。（国際交流委員会）担当理事は、近田 敬子理事、小山 眞理子理事。委員長は、小山 眞理子理事。（大学運営・経営委員会）担当理事は、荒木田 美香子理事、道重 文子理事。委員長は、道重 文子理事。（渉外委員会）担当理事は、河口 てる子理事、清水 房枝理事、杉山 敏子理事、山本 恭子理事。委員長は、清水 房枝理事。（広報委員会）担当理事は、伊藤 直子理事、塚本 尚子理事。委員長は、塚本 尚子理事。③委員会規程第 3 条第 2 項、委員の任期の改正については継続審議とする。
(3) 選挙管理委員については、執行部で候補者を挙げ、第 3 回定例理事会にて選出する。
(4) 平成 29 年度研究助成事業選考結果について、承認された。
(5) 看護学教育コアカリキュラム案のパブリックコメントについて、本協会からパブリックコメントを 8 月 3 日までに文部科学省に提出することを決定し、正会員に周知する。
(6) 平成 29 年度理事会スケジュールについて、以下のとおり決定した。①第 3 回定例理事会：10 月 1 日（日）10：00 ～ 13：00　②臨時理事会：平成 30 年 1 月 8 日（月）13：00 ～ 16：00　③第 4 回定例理事会：平成 30 年 3 月 11 日（日）13：00 ～ 16：00

平成 29 年度　第 3 回 臨時理事会（電磁的記録による決議）

発信月日：平成 29 年 7 月 31 日（月曜日）

審議内容

(1)「看護学教育モデル・コア・カリキュラム（案)」に対し、パブリックコメント内容および発信方法について、理事全員の賛成を得て文部科学省に意見書を提出することとなった。

(2) 平成 29 年度組織体制について、理事全員の賛成を得て承認された。

平成 29 年度　第 3 回定例理事会

日　時：平成 29 年 10 月 1 日（日曜日）10 時 00 分～ 14 時 00 分

審議事項：

(1) 今年度の方針と運営について

(2) 平成 30 年度選挙と選挙管理委員会について

選挙管理委員に坪倉繁美氏（国際医療福祉大学)、島袋香子氏（北里大学)、雑賀美智子氏（帝京平成大学）が選出され委嘱することとなった。

(3) 定款、規程等の一部改定について

(4) 平成 30 年度総会の講演者について

(5) 事務局体制について

(6) 臨時理事会の開催について

報告事項：

(1) 平成 29 年度日本私立看護系大学協会組織・委員について

(2) 委員会活動報告

(3) 中期決算について

(4) 日野原重明名誉会長のご逝去に際して

(5) 文部科学省「看護学教育モデルコアカリキュラム（案)」への意見書について

(6) 日本看護協会「看護職員の多様なキャリアと働き方 実態調査」への協力について

平成 29 年度　第 4 回臨時理事会

日　時：平成 29 年 11 月 23 日（木曜日）10 時 00 分～ 13 時 40 分

審議事項：

（1）定款、規程等の改正案について

①「名誉会長の称号に関する規程」「相談役に関する規程」「基金取扱い規程」「情報公開規程」「個人情報の保護に関する規程」「会長表彰規程」「資金運用規程」「特定個人情報取扱い規程」「事務業務規程」「専任職員就業規則」「有期雇用職員就業規則」「育児・介護休業等に関する規程」「事務局職員給与規程」「事務局職員退職金規程」の誤字及び文言の統一等の改正が承認された。「委員会規程」「研究助成事業規程」「研究助成事業規程施行細則」「文書取扱い規程」については審議され承認された。

②「役員候補者選出規程」について次のような意見が出され次回平成 30 年 1 月 8 日の理事会において継続審議することとなった。

・第 3 条（選挙人・被選挙人）第 3 項『会員校は自校の正会員の中から 1 名を被選挙人として推薦することができる。』という各校の任意性に任せた文のままにするか、あるいはすべての会員校が、学内事情にかかわらず、公平に被選挙人を推薦できるように、同条第 4 項『被選挙人は原則として任期を全うできる者とする。』を削除するか。

・第 8 条（補欠の選出）補欠は全国から 2 名では足りない場合が想定されるため、『補欠は各地区別に得票数の多い 2 名を選出する』としてはどうか。それに伴い第 8 条第 2 項は削除する。

・第 9 条（投票及び開票）投票の方法は指定せず、『投票は、無記名式とする』に変更する。

③「選挙管理委員会規程」について以下のとおりの意見が出され、次回理事会において継続審議することとなった。

・第 2 条（選挙管理委員会・立会人）第 3 項選挙管理委員会が被選挙人になることを想定し、『選挙人は被選挙人を兼ねることができる。ただし、所属する当該地区の開票に立ち会うことができない。』とする。

（2）平成 30 年度委員会活動計画案の調整について

（3）第 1 回選挙管理員会の報告

（4）大学運営・経営委員会 Q-JPNCS の報告書作成について

（5）平成 30 年度総会の講演者候補について

（6）銀行口座について

（7）文部科学省「モデルコアカリキュラム案に対する意見への対応」について

報告事項：

（1）各委員会活動報告

（2）ウェブ会議について

平成 29 年度　第 5 回臨時理事会

日　時：平成 30 年 1 月 8 日（月曜日）13 時 00 分～ 16 時 40 分

審議事項：

(1) 選挙について、坪倉繁美選挙管理委員長より説明があり、審議された。

(2) 規程の改正について次の様に審議され承認された。

①「役員候補者選出規程」について

・第 3 条第 3 項は、前回の理事会において会員校の学内事情を考慮して任意性を持たせるか否か審議されたが、「強制的になってはいけない。」との意見を受けて変更しないこととなった。

・得票数が同数になる場合が予測されるので、選挙人を 3 名にした方が良いのではないかという意見が出されたが、今回は選挙人 1 名被選挙人 1 名で行い、問題があるようなら変更を検討することとなった。

②「選挙管理委員会規程」について、選挙管理委員 3 名を、違う地区から選出しても、全国区の監事の開票に選挙管理委員全員が開票に立ち会うことができない場合が懸念されるので今後、検討する必要がある。

③「経理規程」「経理規程施行細則」「事業活動会計取扱い規程」「出張旅費取扱い規程」「特別会計規程」について、情報が多いことから、各理事は資料を確認し次回の理事会で審議することとなった。

(3) 事業活動計画について

(4) 来年度に向けての委員会活動の調整について

(5) 地域活性化委員会について

(6) 専門職大学について

(7) 委員会活動マニュアルについて

(8) 総会時の特別講演者について

(9) 予算案について

(10) VTR・資料開示に関する内規策定について

(11) 年次報告書の作成について

(12) 日本看護系大学協議会とのデータベースの共有化について、日本看護系大学協議会とデータベースを一体化することが承認された。今後総会において報告し、動き出す運びとなる。大学運営・経営委員会の道重文子理事と荒木田美香子理事が合同検討委員会の委員となり日本看護系大学協議会と協同していくことが承認された。

報告事項：

(1) 委員会活動報告

平成 29 年度　第 4 回定例理事会

日　時：平成 30 年 3 月 11 日（日曜日）　13 時 00 分～ 17 時 20 分

審議事項：

(1) 役員選挙について、坪倉繁美選挙管理委員長より

「告示文」「選挙人・被選挙人の選出について（お願い）」「理事候補者投票用紙・監事候補者投票用紙」「開票立会人」について報告があり審議された。

(2) 2018（平成 30）年度重点事業案について審議された。

(3) 規程関連の整備について

①会計に係る規程案について

・「経理規程」「経理規程施行細則」「勘定科目一覧」は原案通り承認された。

・「将来構想特別会計規則」「維持管理特別会計規則」の廃止が承認され「特別会計規程」に統合することが承認された。

・「事業活動会計取扱い規程」修正案が提案され承認された。

・「出張旅費取扱い規程」は、文言が修正され承認された。

②研修会の動画配信に関する運用内規案について、動画配信期間は 3 ヶ月とすることにし承認された。

(4) 委員会活動報告

(5) 次年度活動計画

(6) 委員会マニュアルの確認

(7) 総会時の特別講演者候補者について、専門職大学等の制度の趣旨・背景・制度設計。既存大学における「専門職学科」の制度化、設置申請の状況等について講演して頂くことが承認された。

(8) 2017（平成 29）年度決算案について

(9) 2018（平成 30）年度予算案について

収入に対して健全な予算案となっているが、経年の次年度繰越金があるので、研究助成金事業費の予算額を少し上げてもよいのではないか、と提案があり、次のとおり審議された。

若手研究者の育成は重要であり、若手研究助成は助成金に採択されたことが実績にもなるとの意見が出され、1 件の助成金額を 50 万円と変更することが承認された。変更に伴い研究助成施事業行細則と募集要項については、電磁的記録による臨時理事会を開催し審議することとなった。

(10) 2018（平成 30）年度研究助成選考委員について

前山直美理事より説明があり、承認された。

(11) 会員校の退会について、飯田女子短期大学の退会が承認された。

報告事項：

（1）日本私立看護系大学協会「看護教育研究経費に関する実態調査：Q-JPNCS」と日本看護系大学協議会「看護系大学の教育等に関する実態調査：JANPU」の二つの調査の共同実施に向けて、次のとおり報告された。

・現在のシステムは維持費が年間 40 万円かかるので 3 月 31 日をもって閉じる。次年度からの経費は日本看護系大学協議会と折半とし、得られた結果はホームページで公開する。

・短期大学の調査は別途実施し、短期大学の情報は本協会のホームページで閲覧できる。

（2）新規会員校への案内について

（3）年報について（広報委員会）

第 6 回　臨時理事会（電磁的記録による）

発信月日：2018（平成 30）年 3 月 19 日（月曜日）

審議事項：

（1）研究活動委員会「研究助成事業規程施行細則」の改正について

（2）研究活動委員会　2018（平成 30）年度一般社団法人日本私立看護系大学協会研究助成募集要項改正案について

報告事項：

（1）2017（平成 29）年度会長表彰について

Ⅱ　2017（平成 29）年度
事業活動報告

1. 大学教育委員会

趣旨

①教育内容（カリキュラム）、方法、評価の調査研究
②教員組織、教員の質・能力の向上、教育能力・施設設備の調査研究
③教育に関するセミナー、ワークショップ等の実施
④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

代表者および委員会構成委員（◎：代表者　○：担当理事）

◎小川　妙子（甲南女子大学）
○惠美須文枝（亀田医療大学）
○門間　正子（日本医療大学）
○桑田　惠子（横浜創英大学）
林　　照子、白濱　郁子（甲南女子大学）久保　幸代、下　　睦子（亀田医療大学）
齋藤　リカ、合田恵理香（日本医療大学）橋本　恵子、永田　智子（横浜創英大学）
古賀　節子、蒔田　寛子、藤井　徹也（豊橋創造大学）

活動報告

1）事業テーマ 1：大学新任教員のための研修会 2017

企画意図：新任教員のための研修会は、個々の大学では対応が難しいことから、平成 26 年度から継続しており、新任教員に求められる知識や情報を提供してきた。今年度は、私学としての特色をより理解できるように看護系私立大学の経営や、私学の理念の特色を反映した教育に関する内容を企画した。また、新任教員の日々の教育活動に必要な看護学教員に求められる資質・能力や効果的な教育などの知識に関する講演を企画した。さらに講演から得た学びを参加者が主体的に共有できるようグループワーク・発表を設定した。

実施日：平成 29 年 8 月 6 日（日）
会　場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）
プログラム：
講演 1. 看護系私立大学とは－私学の特性と教育課程－
講師：井部俊子先生（前日本私立看護系大学協会会長・聖路加国際大学名誉教授）
講演 2. 看護系大学の教員になるとは－求められる資質・能力､新任教員の FD に焦点をおいて－
講師：小山眞理子先生（日本赤十字広島看護大学学長）
グループワーク・発表
結果：参加者 75 校・135 名。参加者の 8 割は、就任 5 年未満の教員であり、職位の多くは助教・講師であった。参加者のアンケートでは、講演・グループワーク・研修会全体に対する「満足感」と「役立った」の回答はいずれも 90％以上であった。感想は、「私学と国公立の違いや私学の建学の精神の重要性が理解できた」「教員としての基本が理解できた」「自己の不足部分が認識できた」「グループワークで悩みが共有できた」「他大学の教員の工夫を知ることができた」など肯定

的であった。本事業への希望は、東京以外での開催や教育方法や教育評価、アクティブラーニング、実習指導などであった。当日の講演は、録画し協会ホームページにアップした。2018 年 3 月末までの動画アクセスは 497 件であった。

2）事業テーマ 2：学士力の向上を目指して教育の質を上げよう！

企画意図：少子化の中での私立看護系大学の急増に伴い、学生の学力の幅は広がっていることに加え、学力のみならず多様な問題をかかえた学生に対応した教育の必要性が高まっている。そこで、多様な課題をもつ学生への教育について、文部科学省参考指針の「学士力」の 3 つの力 1）知識・理解、2）態度・志向性、3）汎用的技能（コミュニケーション）に視点をあて、これらの向上を目指した教育の在り方について研鑽を深め、課題を共有し、解決に向けた対応を考える場とするため企画した。

実施日：平成 29 年 11 月 26 日（日）

会　場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

プログラム：

講演 1.　学士力育成の全般、初年次教育の工夫、学力や心理的な問題をかかえる学生への対処を含めて

講師：菊地滋夫先生（明星大学副学長・明星教育センター長、人文学部教授）

講演 2.　指導困難な学生の実情と今後の教育支援の方向

講師：池松裕子先生（名古屋大学大学院医学研究科教授）

グループワーク・発表

結果：参加者午前 76 名、午後 41 名（理事・委員除く）。参加大学 47 大学 2 短大から複数名の参加があった。参加者の職位は、教授から助手までと幅広く、教員としての在職年数は、半数が 5 年～ 10 年以上であった。

参加者のアンケート（64 名、回収率 84.2%）では、講演への「大変満足」「満足」を合わせて 90%以上と好評であった。感想では、講演 1 には「初年次教育の意義や組織的取組の必要性が理解できた」など、講演 2 については「事例が興味深かった、発達障害を個性ととらえて支援する必要性、一般化できない点に共感した」などであった。グループワークについて、「満足」が約 90%、「役立った」が 100%であり、「ヒントを得た、他大学の情報が得られた、問題意識を再認識した」などであった。一方、「テーマが漠然としていた、ファシリテーターに委員が入ることを検討したほうが良い」との意見もあった。今後希望するテーマは、「今回のテーマの継続」「実習指導」「組織内コミュニケーション」「部下を育てる」などであった。土曜日の開催希望もあった。2018 年 3 月末までの動画アクセスは 615 件であった。

3）まとめ（2 つの事業を通して）

2 つの事業の企画意図は達成できたと考えられる。私立看護系大学の新設が続いている現状において、会員校の教育の質保証･向上のため、アンケートに記載された希望テーマなどを参考に、今後とも会員校のニーズに応えていく企画が必要である。2 回の研修会の動画を協会ホームページに公開した。動画配信について、事前に講師に許諾を得ることや、編集の有無や配信期間など、

手続きを整備していくことが必要である。

＜委員会開催＞

第１回　５月 20 日（土）　定例理事会終了後　事務局
　　研修会の準備・ポスター案、配布方法について検討
第２回　７月 23 日（日）定例理事会終了後　事務局
　　新理事との事業計画確認、８月開催の研修会について会場等の確認
第３回　８月６日（日）　研修会１終了後　アルカディア市ヶ谷
　　研修会２について、役割分担、進捗状況の確認
第４回　10 月１日（日）定例理事会終了後　事務局
　　研修会２について、講師依頼などについて確認
第５回　11 月３日（金）　第１回「大学教育委員会」 事務局
　　11 月 26 日の研修会の参加数見込み、グループ編成等の確認
　　平成 30 年度の事業計画について新任教員研修の継続を決定
第６回　11 月 23 日（木）臨時理事会終了後　事務局
　　次年度事業計画の日程と会場アルカディア確保について検討
第７回　11 月 26 日（日）研修会２終了後　アルカディア市ヶ谷
　　アンケート集計の確認
第８回　2018 年１月８日（月）臨時理事会終了後　事務局
　　次年度事業について検討
第９回　2018 年３月 11 日（日）定例理事会終了後　事務局
　　次年度事業は２つの研修会実施の方向で調整、メール会議で予算・事業計画案修正

今後の課題

「大学教育委員会」は、私学ならではの個々の大学の特色を踏まえた教育の質を担保し高めるための研修の機会や、会員校のニーズに応える企画を提供する必要がある。その一方で、少子化による受験生確保の問題や多様な背景を持つ学生の受け入れ、学力の低下と学士力の育成など、単独の大学が解決することは難しい課題も多く抱えている。その一つが新任教員にむけた教育であり、私学の教育理念を反映した教育の特徴、教育関連法規や教員に求められる能力・資質に関する知識を提供する研修は、今後も継続する意義が大きいと考える。更に入学生の多様化に関する課題は今後も継続することから、今回の一般大学の事例をもとに、看護学分野における教育体制の工夫について、今後の企画に伸展できることが望まれる。

看護学教育の高等教育化については、私学の新設が継続しており、既存の実績ある私立大学と、新設の私立大学ではそれぞれ独自の課題をもつと考えられる。その一方で、私学ならではの経営に関連する教育上の課題もあると考えられる。本委員会は、こうした会員校の現状や問題意識に即したテーマを取り上げ、教育の改善につながる事業を企画する役割がある。

社会における看護学教育の動向も踏まえ、看護学教育モデル・コア・カリキュラム策定や専門職大学の教育について情報収集するとともに、大学教育に関連するテーマについては、適宜他の

委員会との共同開催などを企画していく必要がある。

次年度より委員会の事業を担当する理事の選出方法も変わるため、全国各地区から選出された理事から会員校の意見を反映できる可能性がある。全国の会員校へ協会の事業を還元できるような、例えば同一事業を東日本と西日本で複数回開催するなどの事業の企画・運営方法についても検討する必要がある。後期の研修会開催は、日曜日ではなく土曜日開催の方が参加しやすいことも考慮していきたい。

日本私立看護系大学協会　大学教育委員会　　2017/08/06

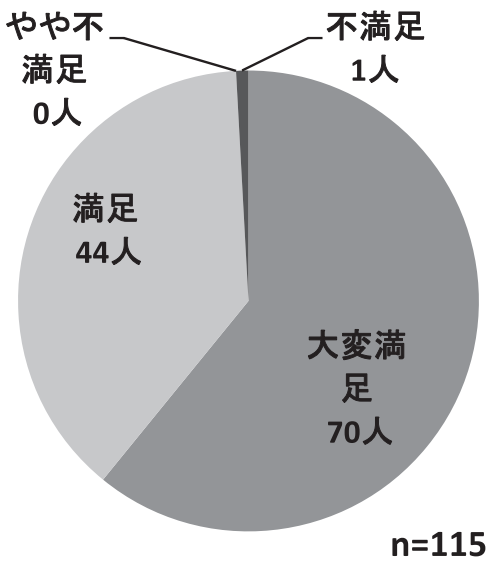
大学新任教員のための研修会 2017　アンケート結果

参加者：135 名　参加校：75 校

アンケート回収数：116 名（回収率 85.9%）

1. 講演会について

講演 1 「私立看護系大学とは－私学の特性と教育課程－」



〈ご意見・ご感想〉

◆具体的な例示の話が特に興味深かった

◆私立と国公立の違いが理解できた

◆私学の特性や、それに関連した法律についての内容が、とてもわかりやすかった

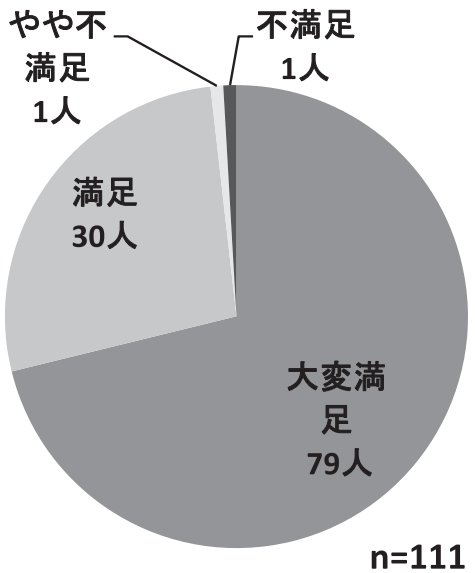
◆建学の精神や、歴史的背景を熟知することの重要性を学んだ

◆話の内容が楽しく､かつ本質をついていたので､考えさせられた

◆大学経営について、教員のマネジメント能力に大きな課題を感じていたので、興味深かった

◆法制度の確認から、現在の確認まで、とても分かりやすかった

講演 2 「看護系大学教員になるとは－教員に求められる資質、効果的な教育方法について－」



〈ご意見・ご感想〉

◆とてもわかりやすかった、もっと講義の時間を長くしてほしいくらいだった

◆教員を続ける上での基本を知ることができた

◆学生あっての教員であることを再認識した

◆自分のこれからの大学教員としての目標が理解できた

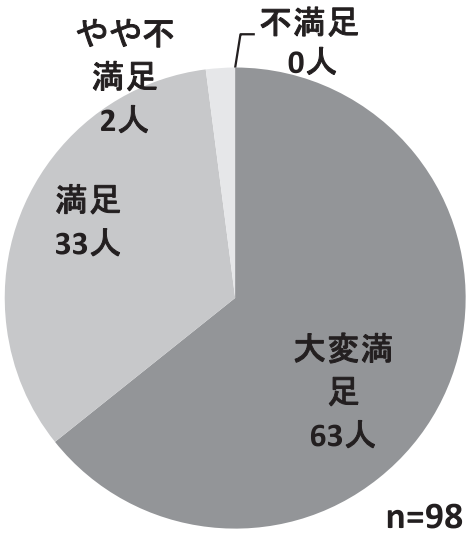
◆自分の評価について考えていなかったので、新鮮だった

◆ FD の用紙はとても活用できると思うので、ありがたい

◆実習を行うに当たっての、自分自身の学びを深めることができた

◆自己の中での不足部分や不明瞭だった部分が、はっきりと認識できた

2. グループワークについて



〈ご意見・ご感想〉

◆いろいろな大学の先生方と話しができ、学びが深まった

◆いろいろな意見交換ができてよかった

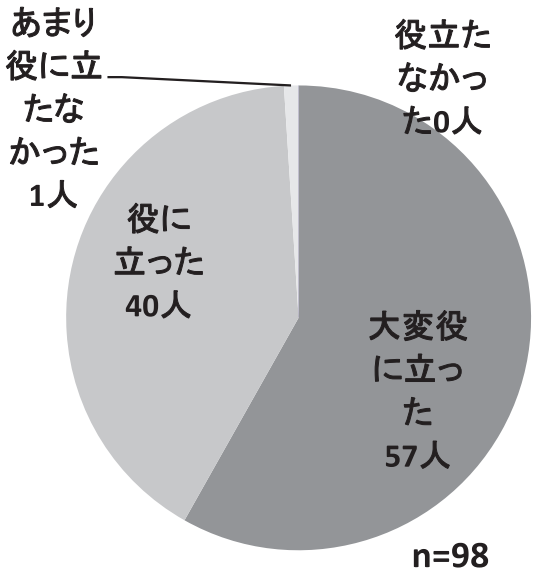
◆同じ立場にある方と話をすることで、悩みを共有し、今後について方向性を見出すことができた

◆他大学での教員の方法や工夫を知ることができ、自分の講義に生かしていきたいと思った

◆講演での学びをさらにフィードバックできてよかった

◆他大学の先生の意見を聞き、刺激された

3. 研修会全体について



〈ご意見・ご感想〉

◆どんな教員になりたいかを改めて考え、明日から頑張りたいと思った

◆改めて大学の基となる保助看法の説明を聞くのは久しぶりで、初心に帰ろうと思った

◆久々に勉強し、気持ちが新たになった

◆新人教員を対象にした研修は少ないので、大変効果的で、役に立った

◆新任で働く教員が抱く自信のなさや不安等をグループワークで共有でき、講演の内容を再考することができた

◆評価票を参考に自己評価をして、教員として成長できるように本日の学びを活用していきたいと思った

4. 今後、本事業で希望するテーマや開催時間、場所などについて

◆東京以外での開催

◆看護以外との職種との協同

◆新人教員へのワーク

◆グラフィックシラバスの作り方

◆研究法についてのセミナー

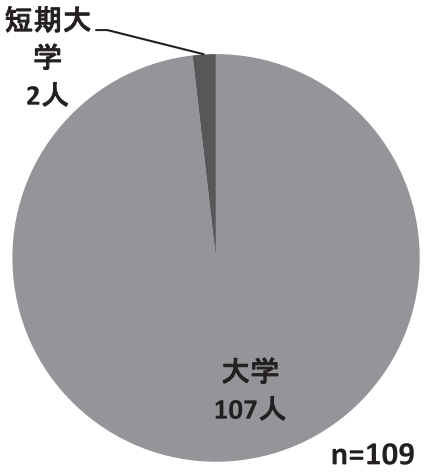
◆教育評価法について

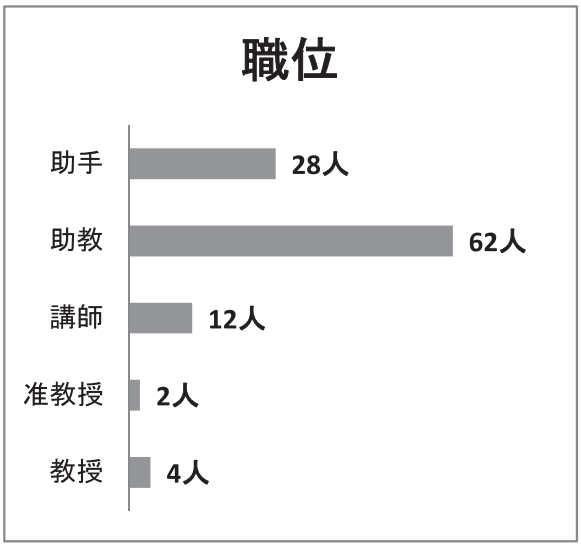
◆看護教育におけるアクティブラーニングについて

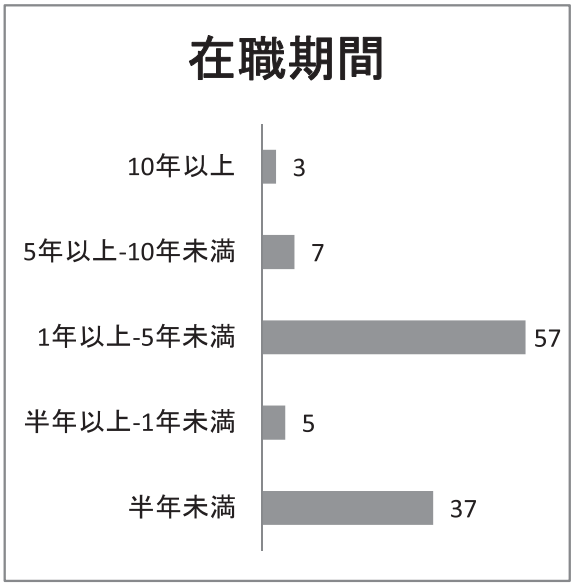
◆教育方法、実習指導に関する講習会

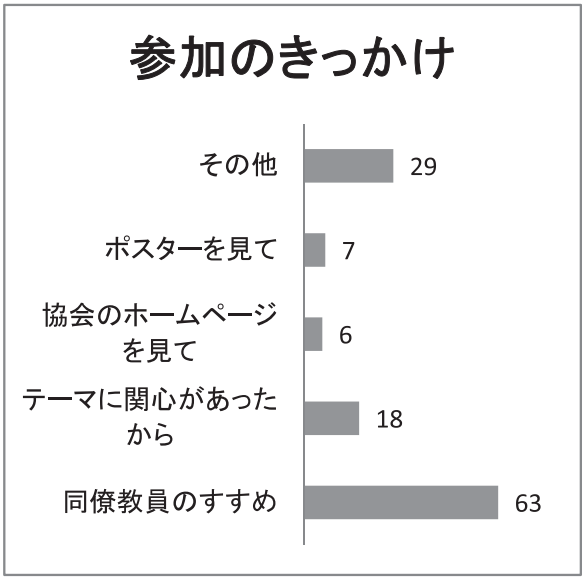
◆アクセスの良い場所にしてほしい

5. 参加者の背景について









日本私立看護系大学協会　大学教育委員会　2017/11/26

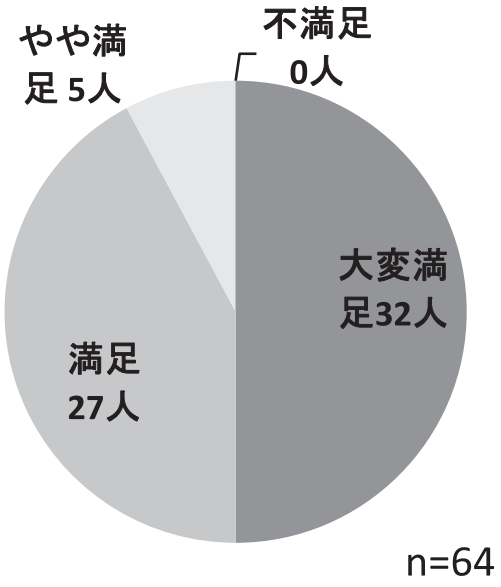
学士力の向上を目指して教育の質を上げよう！　アンケート結果

参加者　午前 76 名　午後 41 名　参加校：49 校

アンケート回収数 64 名（回収率 84.2%）

1. 講演会について

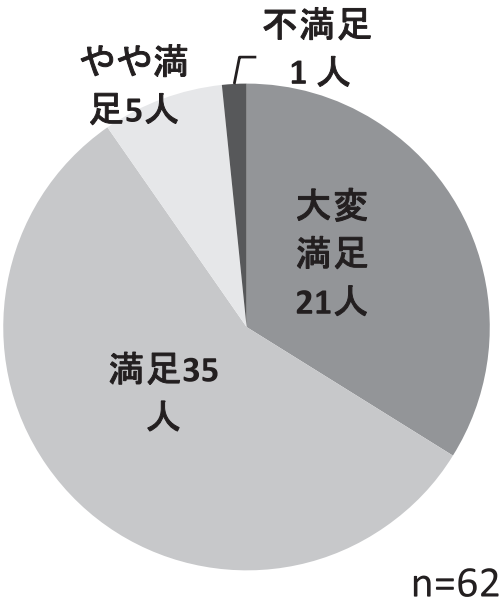
講演 1 「学士力育成の全般、初年度教育の工夫、学力や心理的な問題をかかえる学生への対処を含めて」



【意見・感想】

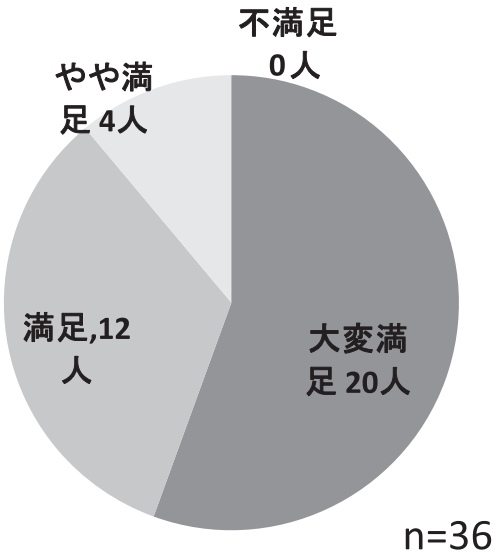
・将来的に初年次教育責任者になる可能性が高いため、とても参考になった
・組織的な取り組みがよく分かった
・初年次教育の重要性、アクティブラーニングで主体性を養うことの重要性を実感した
・看護系大学への応用を実践すべきと思える内容だった
・他学部・学科との交流から学びがあることを知り自身の大学でも取り入れたい
・講師所属大学の見学を検討しようと思った
・看護以外の視点で興味深かった
・問題を抱える学生の例と対応の詳細を知りたかった。
・参考にしたいと思う反面、体系付けられた学内の体制でハードルが高いようにも感じ、できるところからやっていきたい
・詳しい授業内や学生の反応が知りたかった

講演２「指導困難な学生の実情と教育支援の方向性」



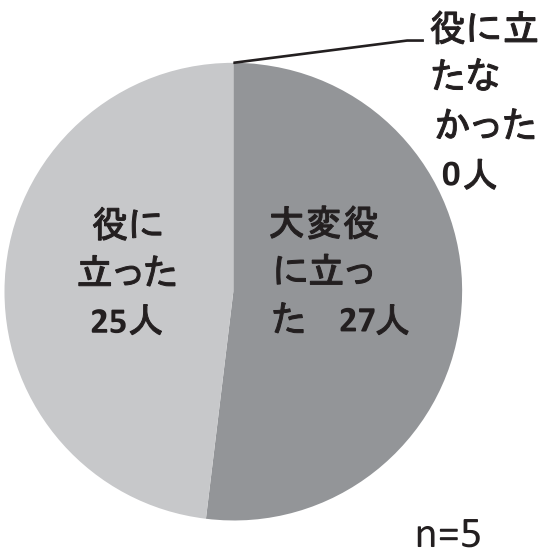
【意見・感想】
・とても興味深く事例にとても共感した
・看護とは何だろうと考えさせられた
・一筋縄ではいかない問題であると感じた
・「一般化できない」という点に共感した
・私学としての使命と兼ね合いを考えさせられた
・差別でなく区別としての支援が必要
・発達障害も個性の１つとして考える、という講師の先生の言葉になるほどと思った
・障害者差別解消法の施行は知らなかったので勉強になった
・自分の指導を変えていかなければならない
・丁寧な対応の積み重ねだと思った
・教員の中にもいろいろなタイプの教員がいるため複雑な問題であると思った
・看護界全体で取り組むべき課題である。指導力のスキルアップが必要である
・スクリーニングツールなどできたら良い、期待している
・教育や臨床心理士の観点からの見解や具体的な取り組みを聞きたかった
・参加者の中で学生に対する見方が偏っていると感じた
・スクリーニングについて海外の対応を知りたかった
・学生側の思いも知りたかった
・研究内容が知りたかった

3. グループワークについて



【意見・感想】
- 他大学の状況が分かり、自分の向き合っている課題が看護系大学に共通していることが分かった
- 苦労や日々の努力の様子が聞けて問題意識を再認識した
- いろんな先生の経験やアイディアを聞き学びが深まった
- 講演内容をどう活かしていくかヒントを得た
- いろんな意見により視野が広がった
- 時間があっという間に過ぎるくらい興味深かった
- テーマが漠然としていた
- ファシリテーターとして委員が入ることも検討したほうが良い

4. 研修全体について



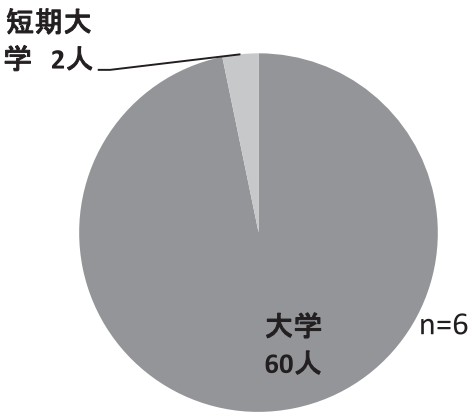
【意見・感想】
- 「学士力」を考える良い機会になった
- 情報交換ができてよかった

5. 今後希望するテーマ、開催方法・時期・場所

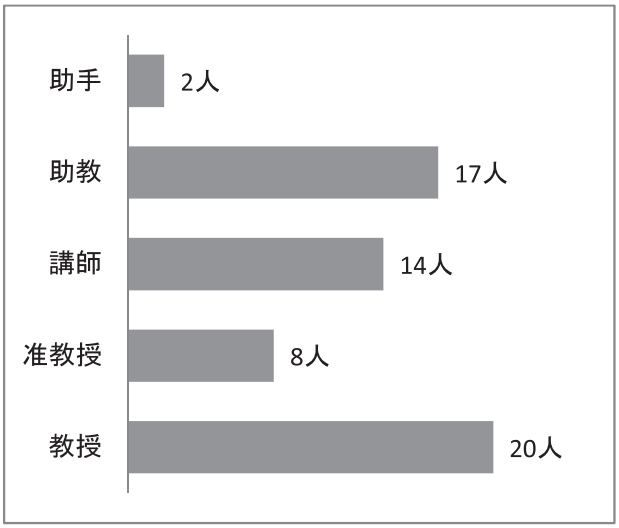
テーマ
・看護系以外の大学の取り組み
・今回のようなテーマの継続
・実習指導に関するテーマ（実習指導者との連携など）
・組織内のコミュニケーション
・部下を育てる（アカハラ、パワハラ）
・東大「発達障害センター？」などの新しい取り組みについて
・教育現場における個人情報保護
・深い学びを促すための実践

時期
・日曜開催は避けてほしい

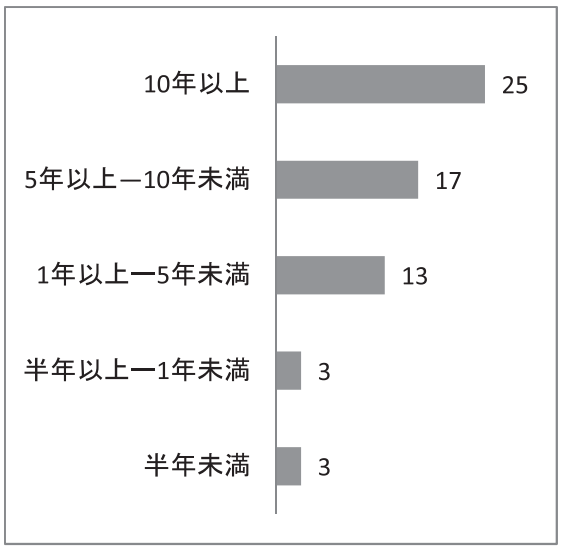
6－1）所属



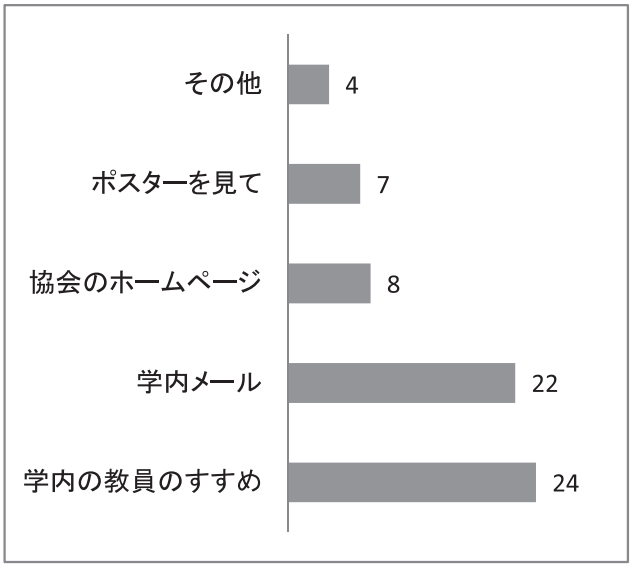
6－2）職位



6－3）教員としての在職期間



7. 参加のきっかけ（複数回答）



2. 研究活動委員会

代表者および委員会構成委員（◎：代表者　○：担当理事）

◎前山　直美（神奈川歯科大学短期大学部）

○池田　優子（高崎健康福祉大学）

○小川　佳代（四国大学）

○小寺　栄子（西武文理大学）

○出野　慶子（東邦大学）

〈委　員〉

石井　一義、池谷　理江、久保木由美（神奈川歯科短期大学部）

山田　秀樹（西武文理大学）安野　朝子（高崎健康福祉大学）

松永　佳子、天野　里奈、高山　　充（東邦大学）

活動報告

【研究助成事業】

平成 29 年度の看護学研究奨励賞、若手研究者研究助成、国際学会発表助成の募集を 4 月～ 5 月に行い、7 月に選考委員会で書類審査の上、選考した結果を、理事会に提出し、助成者を決定した。8 月に助成金の交付を行い、9 月 2 日の「研究セミナー」で研究助成の募集および選考結果の報告を行った。併せて、私立看護系大学会員校における研究助成の現状について、2015 年度看護教育研究経費に関する実態調査より報告した。

1. 平成 29 年度研究助成事業選考結果

1）看護学研究奨励賞受賞者一覧

応募 8 件のうち 4 件を採択した。受賞者には各々 10 万円を授与した。

氏名	所属	論文	掲載誌
古川　亮子	順天堂大学 保健看護学部	The Impact of a Video-Mediated Communication on Separated Perinatal Couples in Japan	Journal of Transcultural Nursing, February, 20, 1-10, 2017
上星　浩子	群馬パース大学	Effectiveness of an educational intervention （the Encourage Autonomous Self-Enrichment Program）in patients with chronic kidney disease : A randomized controlled trial	International Journal of Nursing Studies, 67（2017）51-58
大坂和可子	東京慈恵会医科大学	Effect of a decision aid with patient narratives in reducing decisional conflict in choice for surgery among early-stage breast cancer patients: A three-arm randomized controlled trial	Patient Education and Counseling 100（2017）550-562
岡本　有子	日本赤十字看護大学	Do Symptoms among Home Palliative Care Patients with Advanced Cancer Decide the Place of Death? Focusing on the Presence or Absence of Symptoms during Home Care.	Journal of Palliative Medicine, Volume 19, Number5, 488-496, 2016

2）若手研究者研究助成採択者一覧

応募 20 件のうち 10 件を採択した。採択者には各々 30 万円を授与した。

氏名	所属	研究テーマ
吉川　有葵	摂南大学	男性腎移植レシピエントにおける妊娠・出産に関する基礎的研究
高岡　宏一	関西福祉大学	救急外来における緊急度判定支援ツールの比較検討に関する研究 － Emergency Severity Index の臨床応用を目指して－
永田　智子	横浜創英大学	産後の女性に特化した不安尺度の開発
山崎　智里	金沢医科大学	分娩期における熟練助産師の「直観」に関する研究
郷原　志保	国際医療福祉大学 保健医療学部	地域で暮らす高齢者の医療や終末期に対する認識と意思決定に影響を与える要因の検討
黒岩　美幸	東京医科大学	就労女性のマタニティハラスメントの実態と意識調査
村田加奈子	昭和大学	地域で暮らす高齢者の終末期における訪問看護の特徴
大滝　　周	昭和大学	足部への保温が体温に及ぼす影響
宮本いずみ	久留米大学	手術看護実践能力を高める教育プログラムの開発と効果検証
横山　奈未	日本赤十字広島看護大学	手術看護師による神経損傷予防を考慮したポジショニングの研究 －関節の角度に焦点をあてて－

3）国際学会発表助成採択者一覧

応募 5 件のうち 2 件を採択した。採択者には各々 20 万円を授与した。

氏名	所属	発表論文	学会名および開催地
大西香代子	甲南女子大学	Online ethics consultation for mental health and psychiatry in Japan（日本におけるオンライン精神科倫理コンサルテーション）	18th Nursing Ethics Conference,3rd International Ethics in Care Conference /Leuven,Belgium
吉岡　京子	東京医科大学	Experiences of male workers whose families evacuated voluntarily after the Fukushima nuclear disaster	10th European Public HealthConference 2017 /Stockholm-Sweden

2. 研究助成事業の応募状況と採択結果一覧

【平成 26 年度～平成 29 年度】

	看護学研究奨励賞 （1 件：100,000 円）		若手研究者研究助成 （1 件：300,000 円）		国際学会発表者助成 （1 件：200,000 円）		助成額
年　度	応募者数	採択者数	応募者数	採択者数	応募者数	採択者数	総額（円）
平成 26 年度	8	7	20	10	3	1	3,900,000
平成 27 年度	10	5	25	10	8	3	4,100,000
平成 28 年度	2	0	18	10	9	4	3,800,000
平成 29 年度	8	4	20	10	5	2	3,800,000
合　計	28	16	83	40	25	10	15,600,000
採択率		57.1%		48.2%		40.0%	

【学術研究および学術研究体制に関する事業】

研究セミナーの開催

日　時：平成 29 年 9 月 2 日（土）10:00 ～ 16：00

場　所：東邦大学看護学部

1. セミナー概要

日本私立看護系大学協会の新会長大島弓子氏からの挨拶文を出野慶子理事が代読し、今年度の研究セミナーはスタートし、121 名の会員が参加した。

1）はじめに前山直美理事による研究助成の募集内容・状況の説明と、今年度の選考結果の報告がなされた。次に Web 調査で全国 122 校から協力頂いた 2015 年度看護教育研究経費に関する実態調査結果より報告がされた。

2）引き続き第 1 部では、平成 26・27 年度の若手研究者研究助成を受けた 10 名の方の研究成果報告会が行われた。

成果報告者の研究テーマは下記のとおりである（所属は助成を受けた際の所属を記載）。

（1）通信型家庭血圧測定器を用いた血圧モニタリングの評価と、管理状況の比較研究
小坂　志保（上智大学）

（2）慢性血液透析患者における SOC の違いによる QOL およびストレス対処方略に関する研究
浅田　有希（純真学園大学）

（3）日本語版―主観的睡眠調査票（J-RCSQ）の信頼性と妥当性の検証
村田　洋章（東京慈恵会医科大学）

（4）外傷性高次脳機能障害者家族のエンパワメント強化のための情報提供のあり方と現在の課題
山居　輝美（梅花女子大学）

（5）一人暮らしの高齢 2 型糖尿病患者の自己管理支援モデル開発のための基礎的研究
― 一人暮らしの高齢 2 型糖尿病患者の自己管理の実際 ―
山岸　直子（東京医科大学）

（6）呼吸トレーニング（呼吸エクササイズ）による若年女性の冷え改善効果
飯尾　祐加（兵庫医療大学）

（7）遺伝性稀少難病児の死を巡る家族移行の概念化とシームレスな支援プログラムの検討
坂口由紀子（日本医療科学大学）

（8）妊娠期の妻への夫の関わりとその要因　尾栢みどり（日本赤十字北海道看護大学）

（9）看護師の継続教育における情報行動に関する基礎的研究
大田　博（梅花女子大学）

（10）地域在住高齢者の主観的健康観と関連要因に関する研究
笠原　順子（関東学院大学）

各自 10 分の発表時間の後、活発な意見交換が行われ、さらなる研究の発展が期待される発表であった。

3）第 2 部では、「看護研究の目的別アプローチ」をテーマとして「混合研究法への誘い―質的・量的研究を統合する研究アプローチ」と題して、聖路加国際大学の亀井智子教授による 90 分の講演ならびに質疑応答がなされた。

講演は、「質と量を同時に評価することとは？」からはじまった。概要は次のとおりであった。看護研究に混合研究法を活用すると複雑な事象をより深く理解することができる。つまり量的研究あるいは質的研究のみで捉えることができない研究の限界を補い合うことができ、しかも 1+1=3 となる新しい研究方法である。ぜひやってみたくなる研究手法であった。参加者から具体的な質問が多く出され、活発な意見交換ができ、有意義な時間を共有することができた。

最後に小寺栄子理事が閉会の挨拶を行い、今年度の研究セミナーは盛況のうちに終了した。

2. アンケート結果概要

114 名にアンケートを配布し、84 名（回収率 73.7%）から回答を得た（資料参照）。参加者の職位としては助教が最も多く（32.1%）、次いで教授と講師が同数（15.5%）で関心の高さがうかがえた。

プログラムの満足度（4 段階評価）は、研究成果報告については、昨年と比較して 10 例と多く、内容も多彩であり、「とても有意義」17.0%、「有意義」55.0% と合わせると 72.0%の高い評価であった。

自由記述では、同じぐらいの職位の方の発表を知る機会となり励まされたという意見や、ホームページ上で事前のプログラム内容の提示やホームページ上での成果報告の閲覧の要望が出された。また、助成を受けた責任を持ち内容の精選を求める意見も見られた。

講演については、「とても満足」51.2%。「満足」38.1% であり、約 9 割の参加者が満足していた。

自由記述では、今まさに悩んでいたところだった、質的研究＋量的研究の意義に新たな価値を見いだせた、わかりやすく目からウロコであったなど満足の意見が出された。演習の事例がわかりやすいと評価を受けた一方、もっと詳しく学びたい、もう少し時間がほしかった等、時間をかけた講義と演習への要望が出された。

登録方法、事前情報、大きな問題はなく、今回の会場となった東邦大学看護学部については「とても満足」35.7%、「満足」48.8% であり、映像、音響、会場レイアウト、テーマの提示は約 9 割の参加者が「とても満足」「満足」のいずれかを回答していた。自由記述では、場所がわかりにくいという指摘や、関西での開催希望などがあった。

全体として「とても満足」38.1%、「満足」50%、「少し不満」2.4%であり、「不満」と回答した参加者はなく、9 割以上の参加者が満足できた研究セミナーであった。

【研究活動委員会の開催】

第 1 回　平成 29 年 7 月 15 日（土）11：00 ～ 14：00　日本私立看護系大学協会事務局

出席者：塚本康子、出野慶子、前山直美、選考委員 5 名

議　題：平成 29 年度研究助成の選考（上記、平成 29 年度研究助成事業選考結果参照）

1）看護学研究奨励賞　　応募者　8 件　採択　4 件

2）若手研究者研究助成　応募者 20 件　採択 10 件

3）国際学会発表助成　　応募者　5 件　採択　2 件

第 2 回　平成 29 年 9 月 2 日（土）16：00 ～ 17：00　東邦大学看護学部

出席者：前山直美、池田優子、出野慶子、小川佳代、小寺栄子

議　題：1）平成 29 年度事業活動計画について

2）平成 30 年度「研究セミナー」について

第 3 回　平成 29 年 12 月 6 日（火）9：40 ～ 13：00　日本私立看護系大学協会事務局

出席者：前山直美、池田優子、小川佳代、小寺栄子

議　題：1）平成 30 年度事業計画と予算案について

2）研究助成事業規定および規定施行細則の見直し

3）選考委員の任期満了に伴う新研究助成事業選考委員推薦について

4）研究セミナーの概要の確認

今後の課題

1）会員校の研究費獲得の向上につながる具体的方策、および研究体制向上のための方策を検討する。

2）講演会・研究会などを行い、会員校の教員の研究能力の向上並びに研究活動の質の向上に寄与する。

3）会員校の研究活動活性化に資する研究助成事業のあり方や適切性、審査方法について検討する。

日本私立看護系大学協会　研究セミナーアンケート　集計結果

【開催概要】

日　時：2017 年 9 月 2 日（土）

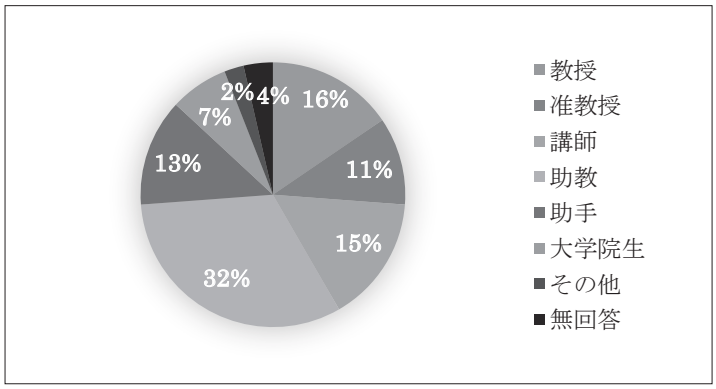
場　所：東邦大学看護学部

【参加者・アンケート回収（回収率）】

参加者 121 名・アンケート配布数：114 名・アンケート回収：84 名（回収率 73.7%）

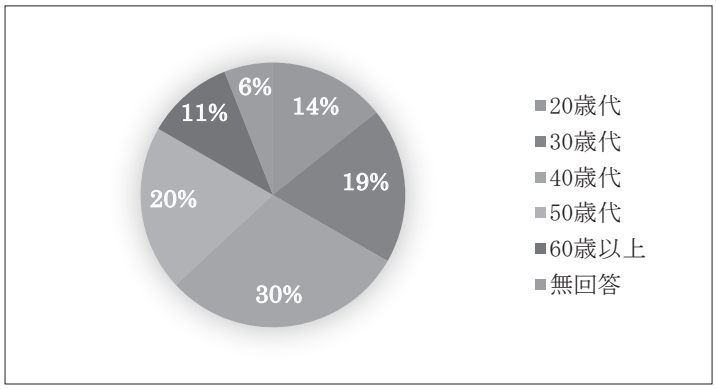
1. 職位

	人数	%
教授	13	15.5
准教授	9	10.7
講師	13	15.5
助教	27	32.1
助手	11	13.1
大学院生	6	7.1
その他	2	2.4
無回答	3	3.6
合計	84	100



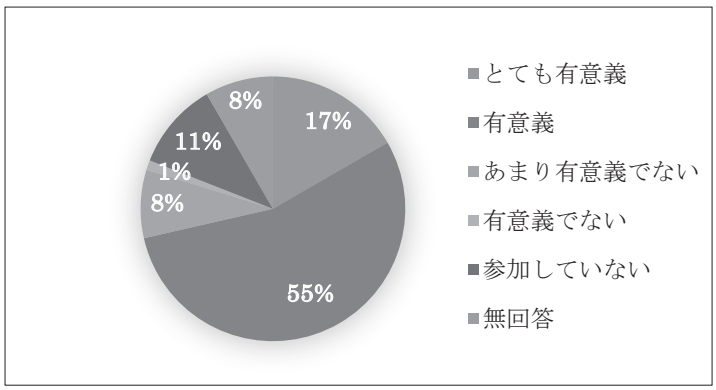
2. 年代

	人数	%
20 歳代	12	14
30 歳代	16	19
40 歳代	25	30
50 歳代	17	20
60 歳以上	9	11
無回答	5	6
合計	84	100



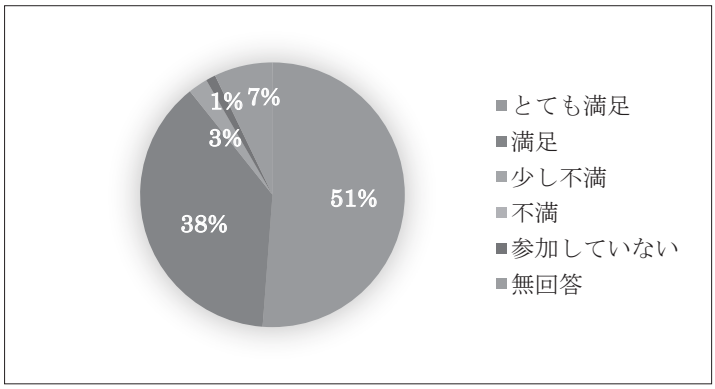
3. プログラム　1. 第 1 部研究成果報告

	人数	%
とても有意義	14	17
有意義	46	55
あまり有意義でない	7	8
有意義でない	1	1
参加していない	9	11
無回答	7	8
合計	84	100



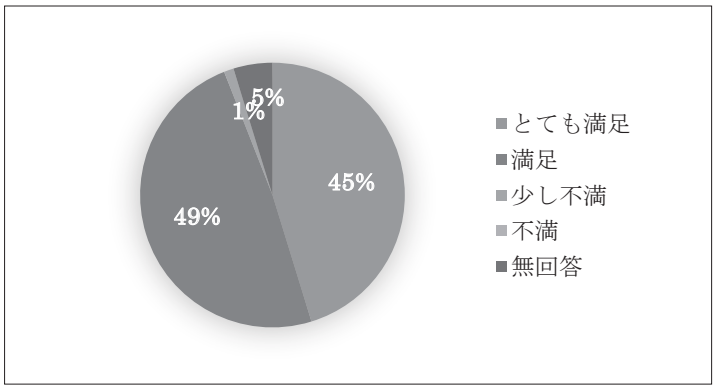
4. プログラム　2. 第2部「研究法への誘い」

	人数	%
とても満足	43	51.2
満足	32	38.1
少し不満	2	2.4
不満	0	0.0
参加していない	1	1.2
無回答	6	7.1
合計	84	100



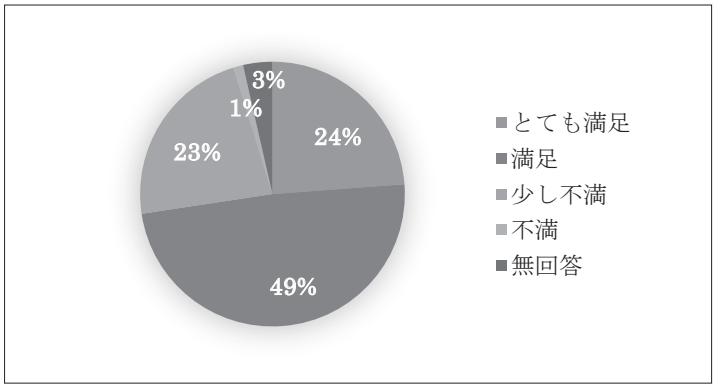
5. 事前準備（登録方法）

	人数	%
とても満足	38	45.2
満足	41	48.8
少し不満	1	1
不満	0	0
無回答	4	4.8
合計	84	100



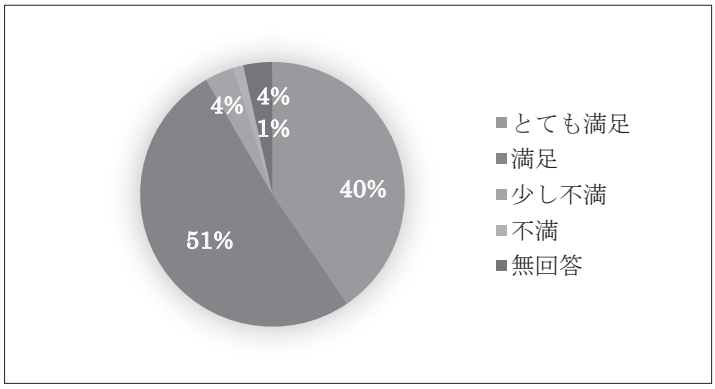
6. 事前準備（事前情報）

	人数	%
とても満足	20	23.8
満足	41	48.8
少し不満	19	22.6
不満	1	1.2
無回答	3	3.6
合計	84	100



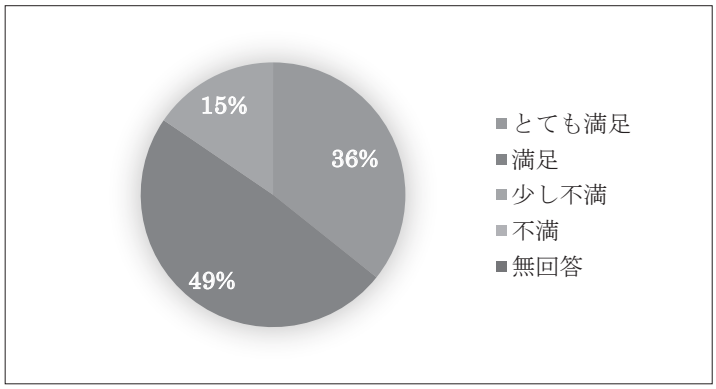
7. 事前準備（配布資料）

	人数	%
とても満足	34	40.5
満足	43	51.2
少し不満	3	3.6
不満	1	1.2
無回答	3	3.5
合計	84	100



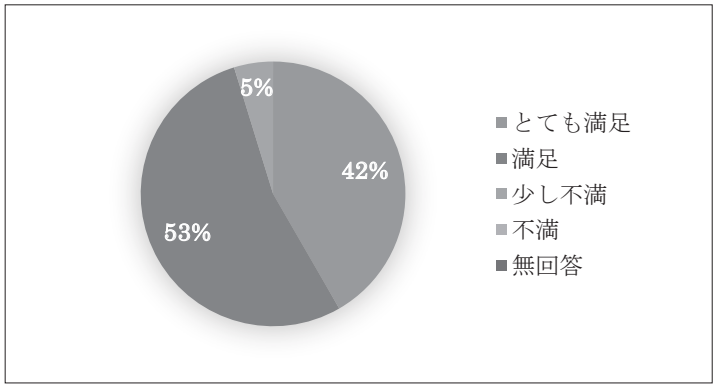
8. 会場設備（会場）

	人数	%
とても満足	30	35.7
満足	41	48.8
少し不満	13	15.5
不満	0	0
無回答	0	0
合計	84	100



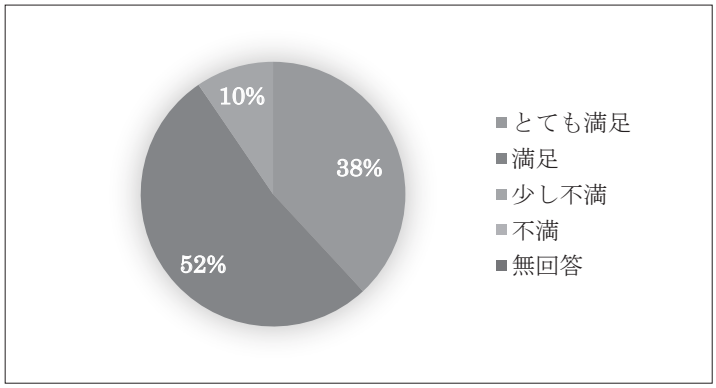
9. 会場設備（映像）

	人数	%
とても満足	35	41.7
満足	45	53.6
少し不満	4	4.7
不満	0	0
無回答	0	0
合計	84	100



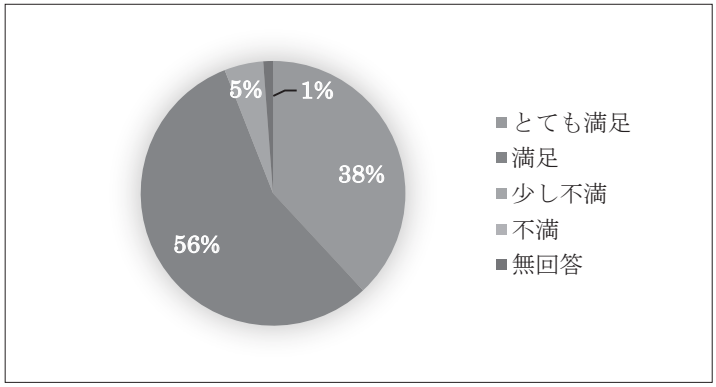
10. 会場設備（音響）

	人数	%
とても満足	32	38.1
満足	44	52.4
少し不満	8	9.5
不満	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	84	100



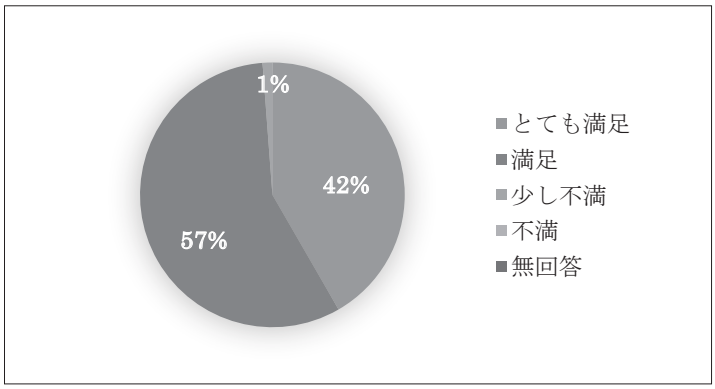
11. 会場設備（レイアウト）

	人数	%
とても満足	32	38.1
満足	47	56
少し不満	4	4.7
不満	0	0
無回答	1	1.2
合計	84	100



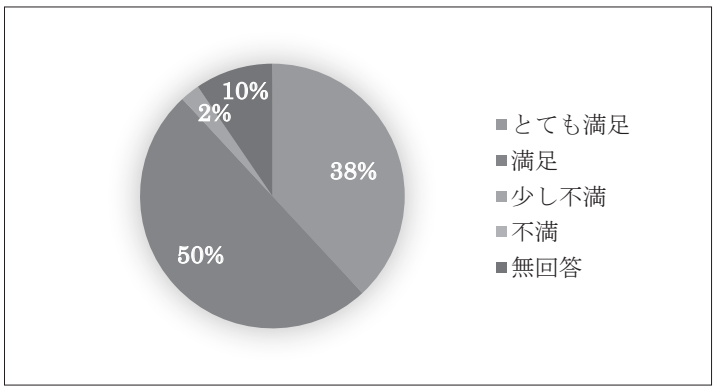
12. 会場設備（テーマの提示）

	人数	%
とても満足	35	41.7
満足	48	57.1
少し不満	1	1.2
不満	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	84	100



13. セミナー全体

	人数	%
とても満足	32	38.1
満足	42	50
少し不満	2	2.4
不満	0	0
無回答	8	9.5
合計	84	100



【アンケート自由記述】

1. 成果報告会・研究助成について

・研究成果報告について　報告会よりもホームページで、成果報告内容が閲覧できると、参加できない者にとっても良いのではないかと感じました。

・研究成果報告については、事前にプログラム内容を提示してほしい。せめて HP 上でもいいので提示して欲しい。

・当日の発表スケジュールなども、事前に分かると良いと思いました。

・助成にもかかわらず、結果や考察が書かれていない。一度内容を確認して資料として欲しい。

・要旨集が事前にホームページに UP していただければ興味のある論文についての関連文献など事前に調べられ発表を有意義に聴けたかと思いました。

・第一部：ほかの研究者（おそらくラダーとして同じくらいの職位の方）の研究を知れる貴重な機会でした。多くの領域の研究があり､励まされるとともに自己の研鑽を積もうと思えました。報告についても資料に入れてもらえるとよい。

・せっかく助成を頂いているのにという研究もあるのかな、と思いました。助成を頂く責任を持たなければならないと思います。

2. 講演について

・混合研究法について、もう少し時間が欲しかった。混合研究法をやっていない人間が研究をするにあたり具体的なサポートをいただくためには、日本混合研究学会に入らないといけないの

でしょうか。まだまだ理解が深まらない部分もあるので、またご紹介いただいた書籍＆サイトを確認したいと思いました。休日にもかかわらず、興味深いセッションありがとうございました。
・第二部の講演の資料やパワーポイントの文字が細かすぎて内容がよくわからなかったことが残念でした。まだ公にされていないものだ、ということが見えづらかった理由のようでしたが、それなら公にされているもの、あるいは少なくとも文字の読める資料にしていただきたかったです。
・混合研究法を伺いたかったので満足です。ありがとうございました。
・今まさに悩んでいたところだったので目からウロコでした。研究進められそうです。ありがとうございました。
・講演にもっと時間をかけて欲しかった。
・混合研究法について詳しく学びたい。
・混合研究の具体例としてもう少し詳しくお聞きしたいと思いました。
・混合研究法講義分かりやすかったです。演習も含めた続編を行っていただきたいです。
・混合研究法についてとても勉強になりました。ありがとうございました。自分の研究課題のリサーチクエスチョンが混合研究法でできるかもしれないと楽しみになりました。本を読んで更に研究法について勉強したいと思います。
・第二部：これまで看護学が研究法として既に行ってきた質的研究＋量的研究の意義に新たな価値を見出させられました（温故知新）演習があったのも、“あ、自分もできそう”と self efficacy が上がってよかったです。
・「混合研究法」の資料の字が一部小さくて見えない。
・混合研究法についてのセミナーは、継続いただきたいです。
・混合研究法とは初めて聞いた内容で、とても有意義な方法でした。是非自分の研究などに生かしていきたいと思います。
・混合研究法のことを詳しく知りたかったので、とても有意義であった。
・最期の演習の事例が分かりやすかった。

3. 今後の研究セミナーについて
・参加したいセミナー内容は教員のタイムマネジメント。事前資料はもう少し具体的なプログラムを提示して欲しい。
・いつもありがとうございます。私立の大学に移ってよかったなー思うことの一つが、このセミナーです。これからもよろしくお願いします。
・看護理論の実践への活用方法について
・講演会をお昼前後に開催してほしい。
・二つの研修企画のように受け止めました。別々にしていただけると参加者枠も大きくなったのではないかと思いました。
・「誘い」は次回どのように生かして下さいますか？
・学生の思考力を高める大学教育方法。見たこと、聞いたことが学んだことという学生が多い。

見たこと聞いたことから「考える力」がなくなってきている。どのような取り組みを各大学でやられているのか知りたい。
・今後も研究に関するセミナーを開催してほしい。

4. 会場について
・場所が非常に分かりにくかった。
・場所が分かりにくかった。
・できれば、関西でも開催いただきたいと思います。
・案内が分かりにくかったです。駅からも近くないですし､大学へ入ってからも何階であるのか､案内があったほうが良かったです。

3. 国際交流委員会

趣旨

①看護における教育、学術及び文化の国際交流を通して、将来国際的に関連機関との連携協力及び援助に繋がるための方策の調査研究

②看護界の動静と看護学教育の国際交流の現状と将来についての講演会等の実施

③上記①、②に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

代表者および委員会構成委員（◎：代表者　○：担当理事）

◎小山眞理子（日本赤十字広島看護大学）

○近田　敬子（鳥取看護大学）

藤井　知美（日本赤十字広島看護大学）

荒川　満枝（鳥取看護大学）

活動報告

・平成 28 年度に実施した全加盟大学におけるグローバル人材の育成に関する教育の実態調査結果を分析し、国際交流活動を活発に行っている私立看護系大学 30 校を抽出した。

・30 校の中から面接調査に協力を得られた 6 校の大学にヒヤリング調査を行った。

＜ヒヤリング調査日程＞

平成 29 年 11 月 24 日（金）　聖路加国際大学

11 月 29 日（水）　藤田保健衛生大学

11 月 30 日（木）　日本赤十字看護大学

11 月 30 日（木）　京都学園大学

12 月 11 日（月）　福岡大学

平成 30 年　2 月　1 日（木）　高崎健康福祉大学

・ヒヤリング結果をまとめ、各大学の承認を得て、ホームページに掲載する準備を行った。

今後の課題

・今年度は海外と国際交流活動に焦点をおいて調査した。日本国内においてもグローバル化が進んでいる今日、大学でのグローバル人材育成を日本国内（地域）でどのように実施しているかについての大学間の情報共有も必要である。

4. 大学運営・経営委員会

趣旨

①私立看護系大学の振興に必要な国、地方公共団体または民間からの補助金、寄付金、その他の支援が可能になるような実態調査・分析

②大学運営・経営の向上に繋がる事業を展開するための方策の提案

③上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

代表者および委員会構成委員（◎：代表者　○：担当理事）

◎道重　文子（大阪医科大学）

○荒木田美香子（国際医療福祉大学小田原保健）

星加　圭子、土肥　美子（大阪医科大学）谷山　　牧（国際医療福祉大学）

渡辺　明良（聖路加国際大学）

活動報告

1）大学運営・経営委員会開催

【第 1 回】

日　時：平成 29 年 8 月 18 日（金）10：00 ～ 12：00

場　所：日本私立看護系大学協会事務局（近清堂ビル 6 階）

出席者：道重　文子、荒木田美香子、谷山　　牧、土肥　美子、星加　圭子

＜議題＞

1）H29 年度 Q-jpncs（看護教育研究経費のデータベース）のアンケートについて

【第 2 回】

日　時：平成 29 年 12 月 21 日（木）10：00 ～ 11：40

場　所：日本私立看護系大学協会事務局（近清堂ビル 6 階）

出席者：道重　文子、荒木田美香子、谷山　　牧、土肥　美子、星加　圭子、渡辺　明良

＜議題＞

1）H29 年度 Q-jpncs（看護教育研究経費のデータベース）調査について

（1）グラフ作成一括表示の納品内容確認

（2）報告書について

（3）日本看護系大学協議会とのデータ共有化について

2）平成 30 年度事業活動計画について

【第 3 回】

日　時：平成 30 年 2 月 11 日（日）10：00 ～ 12：00

場　所：日本私立看護系大学協会事務局（近清堂ビル 6 階）

出席者：道重　文子、荒木田美香子、谷山　　牧、土肥　美子、星加　圭子

＜議題＞

1）平成 30 年度事業計画について

2）研修会開催

日　時：11 月 18 日（土）13：30 ～ 15：30

場　所：大阪医科大学看護学部講義室 1

テーマ：三つのポリシー策定後の対応

講　師：大島　弓子（豊橋創造大学保健医療学部看護学科　学科長）

福田　　昌（聖路加国際大学大学事務部教務･学生課　シニアアシスタントマネジャー）

新井　仁志　（淑徳大学大学改革室　室長）

参加者：55 名

3）日本看護系大学協議会（JANPU）とのデータ共有化に向けての合同会議

第 1 回　2018 年 1 月　8 日（月）日本私立看護系大学協会事務局（近清堂ビル 6 階）

第 2 回　2018 年 2 月　6 日（火）日本看護系大学協議会（JANPU）事務局

第 3 回　2018 年 2 月 18 日（日）日本看護系大学協議会（JANPU）事務局

今後の課題

1）Q-jpncs の調査結果の活用及び報告書の作成等について

2）日本看護系大学協議会とのデータ共有化について

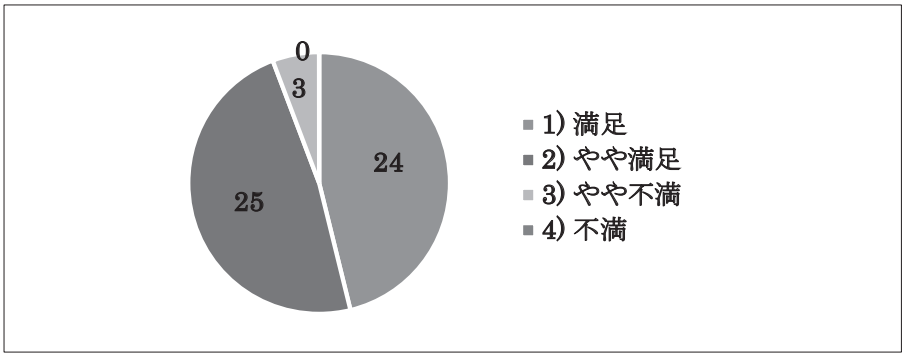
3）2018（平成 30）年度研修計画立案

平成 29 年度「日本私立看護系大学協会研修会」アンケート結果

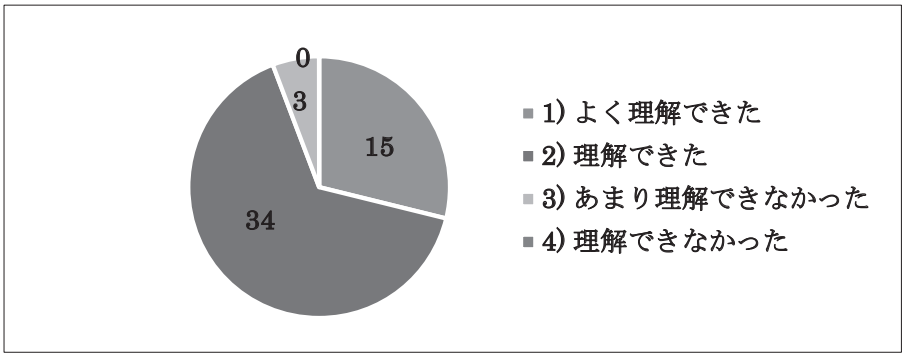
テーマ：三つのポリシー策定後の対応

1. 開催日時　　平成 29 年 11 月 18 日（土）　13：30 ～ 15：30
2. 講 演 者
   大島弓子（豊橋創造大学保健医療学部看護学科　学科長）
   福田　昌（聖路加国際大学大学事務部教務・学生課　シニアアシスタントマネージャー）
   新井仁志（淑徳大学大学改革室　室長）
3. 会　　場　大阪医科大学看護学部第 2 講義室　（大阪府高槻市八丁西町 7 番 6 号）
4. 参 加 者　55 名　　アンケート回答者 52 名（回収率 94.5%）

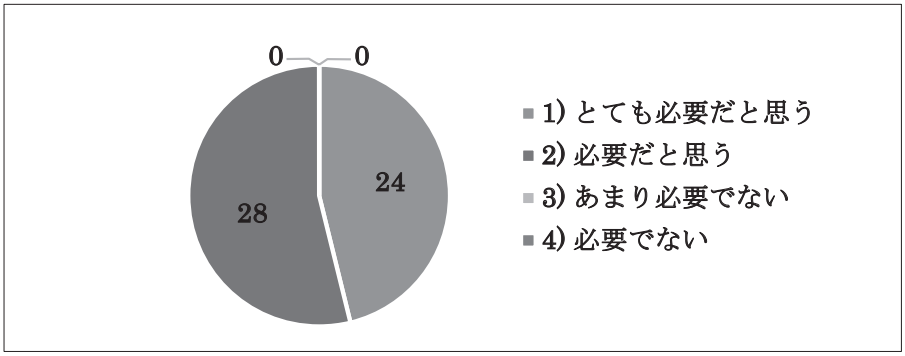
1. 本日の研修会の企画についていかがだったでしょうか？



2. 内容は理解できたでしょうか？



3. これからも関係法令や財務等の管理運営に関する研修が必要だと思いますか？



4. 今後聞きたい内容等、その他ご意見ご要望等

〈全般〉

・本テーマにおいて大学事務、教務担当者がシンポジストになり発言されたことは、新鮮でありました。
・教職員が共通理解と共同作業がとても大切だと思った。
・立場の異なる方のご意見、取り組みを聞き、とても参考になりました。看護教員以外の方々からのご意見は貴重だと思いました。今後も看護教育に関わる他職種の方々の意見を聞ける機会をつくっていただきたいと思いました。
・大満足です。もっと詳細を聞きたいです。
・大島弓子先生のお話しをもっと聴きたいと思いました。倫理観や問題意識についてなど関心があります。本日はありがとうございました。
・基本的な知識不足のまま参加しましたが、一部理解できない点もありましたが、実際の取り組みを具体的に示していただき、大学の質を担保することをもっと考えていかないといけないことがよくわかりました。
・今回の講演内容から分かったことですが､このようなポリシーを事務職が作成していることに、やや不思議な感じがしました。私の大学は、看護教員が何度も会議を開いて作成しました。大島先生の大学と同様の方法で多くの時間と労力を費やしました。しかし、他の 2 講師は事務職でした。看護の教員の意見が反映されているとは思いますが・・・。(感想です)
・卒業生の調査を数年前にしましたが、回答が戻る率が少なかったです。1 年以内に離職している学生が気になりました。
・具体的な策定の方法が、それぞれで結局一貫性を保つには自分達で考えるしかないと思いました。しかし、今回のような研修会をどんどん開催することが重要と思いました。
・現在、実施している内容でした。

〈運営〉

・ハンドマイクが用意されているのに、ワイヤレスマイクで質疑応答されていたのが残念。聞き取りにくかったです。

〈時間〉

・もう少し長い時間､内容を聞きたいと思った。とても有意義でした。ありがとうございました。
・お一人 20 分は短いと思いました。とても参考になる内容で、是非、もっとじっくり学べる機会があるとよいと思います。
・限られた時間を有効に使った内容であった。
・講師の先生方は 1 人 20 分という事例発表を認識されていたのか？早口で聞き取れないところがあった。今後、時程の設定を見直しされては。みなさんが熱心なことはよく伝わった。
・1 人についての発表内容をもう少し具体的に聞くことができるとよいと思った。しかし、研修時間を延ばさないと無理ですね。
・もっと長い時間、話を伺いたかったです。ありがとうございました。

・質問時間があり、内容が深められて大変良かった。勉強になり元気が出た。

〈今後聞きたい内容〉

・今後も継続して行ってほしいテーマです。とても参考になりました。
・DP 策定後の Q&A、事例を用いてディスカッションを GW で行う。
・本学部の CP を見直す視点が明確になりました。評価方法をこれから明確にしていかなければならない段階であるため、評価に関して事例紹介していただけるとありがたい。
・コアカリについて
・運営、経営の視点からのモデル・コア・カリ
・モデルコアカリキュラムについて
・カリキュラム改正の方法
・学生評価について学びたいです。
・新人教員の研修
・予算立案、学生１人当たりの予算（教材）の考え方？
・医師である教員とのかかわりについて
・アクティブラーニングの取り組み方

5. 渉外委員会

趣旨

①本法人の発展のため外部の組織に働きかけ、看護教育並びに看護専門職としての充実・発展に必要な国の制度や法令、文教行政や予算、高大連携についての確かな情報収集と分析・整理

②文部科学省、厚生労働省関係、日本学術会議をはじめ、日本看護系大学協議会、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、中央教育審議会、大学設置・学校法人審議会等諸機関の活動状況の把握をし、必要な提携・協力及び支援活動を企画・実施

③啓発活動のためのセミナーの実施

④上記①～③に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

代表者および委員会構成委員（◎：代表者　○：担当理事）

◎清水　房枝（京都光華女子大学）

○河口てる子（日本赤十字北海道看護大学）

○山本　恭子（園田学園女子大学）

○杉山　敏子（東北福祉大学）

活動報告

1）関係諸団体訪問活動について

実施日：平成 29 年 12 月 25 日（月）・平成 30 年 2 月 5 日（月）・2 月 13 日（火）

訪問先：日本私立大学協会

訪問先：日本私立学校振興・共済事業団

訪問先：日本私立短期大学協会

訪問先：日本私立大学連盟

訪問者：日本私立看護系大学協会渉外委員会委員 4 名・協会事務局 1 名：計 5 名

訪問報告内容

①私立大学協会

小出秀文事務局長（常務理事）と面談

ご挨拶のあと、私立大学協会について（私立大学も協会と連盟の加盟校があることなど）お聞きした。

また、日本看護系大学協会が抱える問題として、専門職大学の今後について、「専門職大学の認可について課題がクリアーされていない点など、文部科学省に設置問題の意見を提言している」と小出事務局長の考えを聴いた。

今後、私立大学の中で経営的にも、大きな位置を占める看護系大学の持つ課題について協力いただくことをお願いした。

②日本私立学校振興・共済事業団

河田悌一理事長と面談

ご挨拶のあと、理事長より、事業団の活動などお聞きし、日本私立看護系大学協会の概略を

説明した。今回は、ご挨拶に伺い、今後の活動により協力･支援をいただきたい旨をお願いした。

③私立短期大学協会

小松茂喜事務局長（常任理事）と面談

ご挨拶のあと、私立短期大学協会についてお聞きした。日本私立大学協会と同様に日本看護系大学協会が抱える問題として、専門職大学の今後について、専門職大学の認可について、日本私立看護系大学協会が持つ心配などの課題についてお話しした。

さらに日本短期大学協会の小松事務局長の考えを聴いた。

今後、私立大学の中で経営的にも、大きな位置を占める看護系大学の持つ課題について協力いただくことをお願いした。

④日本私立大学連盟

鎌田薫理事長にご挨拶

早稲田大学の総長である、日本私立大学連盟の鎌田理事長に、理事会前の時間を使いご挨拶した。

日本私立看護系大学協会の概略を説明し、今回は、ご挨拶に伺い、今後の活動により協力・支援をいただきたい旨をお願いした。

2）専門職大学制度の創設について：研修会

実施日：平成 30 年 2 月 13 日（火）15 時から 17 時

講　師：文部科学省高等教育局　大学改革官　渋谷秀行様・専門官　辻　邦章様

目　的：専門職大学について説明を受けて情報の収集を行い理解を深める

内　容：配布資料参照

「専門職大学制度の創設について」文部科学省高等教育局に依頼、『制度化の趣旨・背景等、専門職大学の制度設計･大学の「専門職学科」の制度化､設置申請の状況』について研修会を行った。我が国の経済社会状況や高等教育をめぐる状況の背景から、新しいタイプの人材育成の強化が急務とされ、今後の成長分野を見据え、新たに養成すべき専門職業人材は、理論に裏付けられた高度な実践力＋変化に対応して、新たなモノやサービスを創り出す豊かな創造力を持ち合わせた人材を「専門職大学・専門職短期大学」として大学系への位置づけをすることとされました。この制度は「学校教育法の一部を改正する法律」として、平成 31 年 4 月 1 日施行される。専門職大学設置基準は①入学者の多様性の確保、②教育課程の編成方針、③教育課程連携協議会、④授業科目（1）、⑤授業科目（2）、⑥授業を行う学生数、⑦卒業の要件、⑧臨地実習・連携実務演習等、⑨専任教員、⑩実務家教員、⑪研究能力を併せ有する実務家教員、⑫みなし教員、⑬教員の資格、⑭校地の面積、⑮校舎の面積の他に、学位規則の一部改正があります。また、既存の大学や短大への新機関併設も提言された。現在､設置申請の状況は平成 31 年 4 月の開設に向けて「専門職大学 13 校、専門職短期大学 3 校」の申請が審議中とされています。

委員会では、今後、高等教育を取り巻く社会環境は一層変化し、知識・技能を学んで修得する能力だけでなく、実践応用する能力や、自ら問題の発見や解決に取り組み、他者と協働しながら社会に多様な価値を創造する能力の育成を重要視している状況を、広報や研修会を通して加盟校の皆様方に情報提供し、今後の各高等教育機関の役割や機能強化について連携を図っていくこと

を考えていきたい。

今後の課題

①日本私立看護系大学協会が必要とする関係機関と、関係を深め考えを知り協力・支援に向けた働きかけをしていくこと

②日本私立看護系大学協会が必要とする関係機関の団体担当者に、現状への認識及び今後の方針について理事会の席で話を聞く機会が持てること

③文部科学省高等教育局が目指す専門職大学について、広報や研修会を通して加盟校に情報の提供を行う

6. 広報委員会

趣旨

①本法人の目的の達成に寄与するため会報・その他刊行物の発行
②会員校への情報伝達及び会員校間の情報交換
③本法人の活動の外部への PR のためホームページの企画運営
④上記に関連する本法人の提言又は要望の案のとりまとめと理事会及び総会への報告

代表者および委員会構成委員（◎：代表者　○：担当理事）

◎塚本　尚子（上智大学）
○伊藤　直子（西南女学院大学）
石川ふみよ、草柳　浩子、平塚　克洋（上智大学）
布花原明子、鹿毛　美香（西南女学院大学）

活動報告

1）会報第 37 号（平成 29 年 5 月 1 日）・38 号（平成 29 年 11 月 1 日）発刊
会報発刊に向けてメール会議開催
・第 1 回：第 37 号の原稿確認・校正
・第 2 回：第 38 号の企画案・発行スケジュール審議
・第 3 回：第 38 号の原稿確認・校正
・第 4 回：第 39 号の企画案・発行スケジュール審議

2）第 39 号の企画
平成 30 年 5 月 1 日発行にむけて、準備中である。ユニークな取り組みの大学には、私立大学ブランティング事業を紹介する予定。

3）ホームページ等の広報活動の充実
・平成 29 年 7 月 31 日に協会ホームページのリニューアルを行った。
スマートフォン対応と協会内で操作性も拡がり、機能性が向上した。
・総会や各委員会での講演会の動画配信をホームページ上会員専用ページに掲載した。
・選挙管理委員会より、2017 年 12 月 14 日、2018 年 1 月 18 日付で役員選出スケジュールの概要について及び 2018 年 2 月 26 日付選挙告示を HP ならび各会員校への配信を行った。
・その他　更新作業

今後の課題

日本私立看護系大学協会としての活動を広く会員校に周知していくために、各委員会と共同して HP 等での情報発信を進める。